

0001 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

問題：リスクアセスメントの基本的な進め方として、最も適切なものはどれか。

- ア．危険性・有害性を特定し、リスクを見積もり、低減措置の優先度と内容を検討して実施する。
- イ．災害が発生してから原因だけを調べる。
- ウ．危険性の特定をせず全作業に同じ保護具だけを配る。
- エ．リスクに関係なく費用の安い対策から実施する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。指針は危険性・有害性の特定、リスク見積り、優先度設定、低減措置の検討・実施を基本とする。
イ：誤り。未然防止が目的である。
ウ：誤り。危険源の特定が必要である。
エ：誤り。リスクの程度に応じて優先順位を定める。

総合解説：指針は危険性・有害性の特定、リスク見積り、優先度設定、低減措置の検討・実施を基本とする。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

問題：管工事現場のリスクアセスメントで、危険性・有害性の特定対象として最も適切なものはどれか。

- ア．過去に発生したけがだけを対象とする。
- イ．機械設備、材料、作業方法、作業行動など、労働者の就業に係る危険性・有害性を幅広く対象とする。
- ウ．法令に数値基準がある危険だけを対象とする。
- エ．現場外の一般交通だけを対象とする。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。潜在する危険源も対象である。
イ：正しい。設備、原材料、作業行動その他業務に起因する危険性・有害性を広く対象とする。
ウ：誤り。法定基準の有無だけで限定しない。
エ：誤り。現場内の作業リスクも対象である。

総合解説：設備、原材料、作業行動その他業務に起因する危険性・有害性を広く対象とする。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

問題：リスクの見積りで組み合わせて考慮する要素として、最も適切なものはどれか。

- ア．勤続年数と会社の売上高。
- イ．工事金額と延べ床面積。
- ウ．負傷・疾病の重篤度と、その発生する可能性の度合い。
- エ．資材価格と工期だけ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。基本的なリスク見積り要素ではない。
- イ：誤り。災害リスクを直接表さない。
- ウ：正しい。重篤度と発生可能性を組み合わせてリスクを見積もる。
- エ：誤り。価格と工期だけでは評価できない。

総合解説：重篤度と発生可能性を組み合わせてリスクを見積もる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせて危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

問題：高所配管作業の墜落リスクを低減する考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．最初から保護具だけに依存する。
- イ．熟練者だけなら対策を省略する。
- ウ．発生頻度が低ければ死亡につながる危険でも対策しない。
- エ．可能なら高所作業そのものを減らし、作業床・手すり等の設備対策、管理的対策、保護具を組み合わせる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。保護具だけに依存しない。
- イ：誤り。熟練度だけで省略できない。
- ウ：誤り。重篤度も考慮する。
- エ：正しい。危険源の除去・低減を優先し、設備・管理・保護具を重層的に検討する。

総合解説：危険源の除去・低減を優先し、設備・管理・保護具を重層的に検討する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせて危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

問題：危険予知（KY）活動とリスクアセスメントの関係について、最も適切なものはどれか。

- ア．KYは作業前に具体的な危険と行動目標を共有する活動で、体系的なリスクアセスメントと相互補完できる。
- イ．KYを実施すれば法令上必要な設備対策は不要になる。
- ウ．リスクアセスメント後は作業直前の危険確認が不要になる。
- エ．KYとリスクアセスメントは完全に同一である。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。目的や手順は異なるが、併用して安全管理を強化できる。
- イ：誤り。KYは法定措置の代替ではない。
- ウ：誤り。作業条件の変化に応じ直前確認も重要である。
- エ：誤り。両者は同一ではない。

総合解説：目的や手順は異なるが、併用して安全管理を強化できる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

問題：配管搬入経路が変更され、フォークリフトとの交錯が新たに生じることになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．当初の評価を実施済みなのでそのまま作業する。
- イ．変更後の条件で危険性を再確認し、動線分離や誘導などの対策を見直す。
- ウ．工程変更だけなので安全面の再評価は不要とする。
- エ．注意するよう伝えるだけで動線は確認しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。条件変更により新たな危険が生じている。
- イ：正しい。作業方法や動線の変更では新たな危険が生じ得るため再評価する。
- ウ：誤り。安全に影響する変更は再評価が必要である。
- エ：誤り。具体的な低減措置が必要である。

総合解説：作業方法や動線の変更では新たな危険が生じ得るため再評価する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

問題：対策実施後も完全には除去できない残留リスクへの対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．対策後は残留リスクがないものとして扱う。
- イ．管理者だけが知っていればよい。
- ウ．残留リスクと注意事項を関係者に共有し、作業手順・教育・監視等で管理する。

エ．工程優先で追加管理を行わない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。対策後もリスクが残る場合がある。
- イ：誤り。作業者への共有が必要である。
- ウ：正しい。対策後に残るリスクも明確にし、伝達・管理を続ける。
- エ：誤り。残留リスクに応じた管理が必要である。

総合解説：対策後に残るリスクも明確にし、伝達・管理を続ける。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

問題：重量配管の仮置き中に転がりかけたが負傷者はいなかった。安全管理上、最も適切な扱いはどれか。

- ア．負傷者がいないため記録しない。
- イ．事故ではないので安全担当者へ知らせない。
- ウ．個人の注意不足だけで処理する。
- エ．ヒヤリ・ハットとして原因を確認し、仮置き方法や転がり止め等の対策をリスク評価に反映する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。重大災害の兆候になり得る。
- イ：誤り。組織的に共有する価値がある。
- ウ：誤り。設備・手順の要因も確認する。
- エ：正しい。無災害の事象も潜在危険を示す情報として活用する。

総合解説：無災害の事象も潜在危険を示す情報として活用する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

問題：リスク低減措置を実施した後の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．措置が実際に機能しているか確認し、必要に応じて再評価・追加対策を行う。
- イ．文書に記載した時点で完了とする。
- ウ．事故が起きるまで効果確認を行わない。
- エ．一度決めた対策は条件が変わっても見直さない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。措置の実施状況と効果を確認し、必要なら見直す。
- イ：誤り。文書化だけでは不十分である。
- ウ：誤り。予防的に確認する。
- エ：誤り。条件変化に応じ見直す。

総合解説：措置の実施状況と効果を確認し、必要なら見直す。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

問題：軽微な切創は起こりやすい一方、吊り荷直下への立入りは頻度が低いが死亡災害につながり得る。優先順位の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．頻度の高い切創だけを対策する。
- イ．発生可能性だけでなく重篤度も考慮し、吊り荷直下への立入り防止など重大リスクを優先して低減する。
- ウ．すべて同じ優先度として扱う。
- エ．工程への影響が小さい対策だけを選ぶ。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。低頻度でも重大な危険を軽視できない。
- イ：正しい。重篤度と発生可能性を組み合わせることで優先度を決める。
- ウ：誤り。優先順位を設定する必要がある。
- エ：誤り。安全リスクを基準に判断する。

総合解説：重篤度と発生可能性を組み合わせることで優先度を決める。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

問題：リスクアセスメントに実際の作業者を参加させる主な利点として、最も適切なものはどれか。

- ア．管理者だけで十分なので作業者情報は不要である。
- イ．参加すると安全責任が作業者へ移る。
- ウ．日常作業で生じる具体的な危険や実際の手順を把握しやすく、実行可能な対策につなげやすい。
- エ．経験があれば客観的評価は不要になる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。現場情報が重要である。
- イ：誤り。責任が移転するものではない。
- ウ：正しい。現場実態を知る作業者の知見は危険源特定と対策の実効性向上に有用である。
- エ：誤り。経験と体系的評価を併用する。

総合解説：現場実態を知る作業者の知見は危険源特定と対策の実効性向上に有用である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

問題：機械室で溶接作業と可燃性保温材の搬入が同時に計画され、火災リスクが高いと判断された。最も適切な対応はどれか。

- ア．工程を優先して同時作業を続ける。
- イ．注意喚起だけで工程や配置は変えない。
- ウ．消火方法だけ決め、発生防止策は検討しない。
- エ．同時作業を避ける工程へ変更し、火気管理や可燃物隔離など具体的な低減措置を施工手順へ反映する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。高リスクを放置してはならない。
- イ：誤り。注意喚起だけでは不十分である。
- ウ：誤り。予防策を優先する。
- エ：正しい。評価結果は実際の工程・施工手順・設備対策へ反映する。

総合解説：評価結果は実際の工程・施工手順・設備対策へ反映する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

問題：安全な作業計画を作成する主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業方法・順序・使用機械・作業範囲・安全措置を事前に明確にし、関係者が共通理解で作業できるようにする。
- イ．作業開始後に各作業員が独自に方法を決めるため。
- ウ．施工図の代わりに寸法だけ記録するため。
- エ．安全措置を省略して工程を短縮するため。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。危険を踏まえた作業方法と役割を事前に明確化する。
- イ：誤り。独自判断のばらつきは危険である。
- ウ：誤り。寸法記録だけが目的ではない。
- エ：誤り。安全措置を省略するものではない。

総合解説：危険を踏まえた作業方法と役割を事前に明確化する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

問題：危険作業で作業指揮者を定める場合、その役割として最も適切なものはどれか。

- ア．作業中は現場を離れ終了後だけ確認する。
- イ．定めた作業方法に沿って直接指揮し、作業配置や安全措置の実施状況を確認する。
- ウ．作業方法は各作業者に任せ工程だけ管理する。
- エ．異常があっても工期優先で継続させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。現場状況の把握が必要である。
- イ：正しい。計画された安全な方法を現場で実行させる役割がある。
- ウ：誤り。作業方法の統一に関与する。
- エ：誤り。危険時は是正・中止を判断する。

総合解説：計画された安全な方法を現場で実行させる役割がある。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

問題：バックホウで屋外配管の掘削を行う場合の作業計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．運転者が熟練していれば運行経路は決めなくてよい。
- イ．埋設物は掘削後に確認すればよい。
- ウ．地形・地質・埋設物・機械の能力・運行経路・作業方法を踏まえ、接触や転落等を防ぐ計画を定める。
- エ．能力に関係なく最短経路だけで決める。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。運行経路や立入範囲を明確にする。
- イ：誤り。埋設物は事前確認が必要である。
- ウ：正しい。現場条件と機械特性を踏まえた作業計画が必要である。
- エ：誤り。能力・安定性も考慮する。

総合解説：現場条件と機械特性を踏まえた作業計画が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

問題：複数の作業員がクレーン運転者へ同時に異なる合図を送っている。最も適切なものはどれか。

- ア．運転者が聞きやすい人の合図を都度選ぶ。
- イ．全員が大声で指示すればよい。
- ウ．合図を廃止して運転者の勘で操作する。
- エ．あらかじめ合図を定め、指名した合図者から運転者へ統一して伝える。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。指示競合が生じる。
- イ：誤り。合図系統を統一する必要がある。
- ウ：誤り。共通の合図が必要である。
- エ：正しい。一定の合図と合図者の指名で誤操作を防ぐ。

総合解説：一定の合図と合図者の指名で誤操作を防ぐ。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

問題：天井内で配管工事と電気工事が狭い範囲に集中し、脚立・工具・資材が交錯している。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業範囲・時間帯・搬入経路を調整し、同時作業による接触・落下・通路閉塞を減らす。
イ．各業者が自分の工程だけを優先する。
ウ．作業員を増やして同時に終わらせる。
エ．通路が塞がっても短時間なら続ける。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。混在作業では作業間調整が重要である。
イ：誤り。相互干渉を管理する必要がある。
ウ：誤り。人員増が交錯リスクを高める場合がある。
エ：誤り。安全な通路を確保する。

総合解説：混在作業では作業間調整が重要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

問題：重量機器の据付作業を開始する直前の確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．予定時刻になったら確認を省略する。
イ．使用機械・玉掛け用具・搬入経路・立入範囲・合図方法・役割が計画どおりか確認する。
ウ．据付位置だけ確認し玉掛け用具は見ない。
エ．合図方法は作業中に決める。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。時間優先で省略しない。
イ：正しい。計画と現場の一致を作業前に確認する。
ウ：誤り。用具の健全性も重要である。
エ：誤り。合図は事前に統一する。

総合解説：計画と現場の一致を作業前に確認する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

問題：移動式クレーンのアウトリガ張出し予定位置に資材が置かれ、必要なスペースを確保できない。最も適切な対応はどれか。

- ア．張出しを減らして予定どおり作業する。
- イ．荷が軽そうなら安定性確認なしで作業する。
- ウ．作業を開始せず、資材移動やクレーン配置変更など安定性を確保できる計画へ見直す。
- エ．運転者だけに変更を知らせる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。支持条件を不十分にしてはならない。
- イ：誤り。定格や安定性は外観で判断できない。
- ウ：正しい。現場条件が計画と異なる場合は安全条件を再確認して見直す。
- エ：誤り。関係者へ共有する。

総合解説：現場条件が計画と異なる場合は安全条件を再確認して見直す。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

問題：掘削中に想定外の湧水と地山の小崩落が確認された。作業指揮として最も適切なものはどれか。

- ア．小崩落なので注意だけして続ける。
- イ．作業員を増員して掘り進める。
- ウ．湧水を無視して深さだけ確認する。
- エ．危険区域から退避させ、地山・土止めを点検し、必要な補強や排水を行って安全確認後に再開する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。重大崩壊の前兆になり得る。
- イ：誤り。危険区域への曝露を増やす。
- ウ：誤り。湧水は地山安定へ影響する。
- エ：正しい。異常兆候があれば退避・点検・是正を優先する。

総合解説：異常兆候があれば退避・点検・是正を優先する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

問題：重量機器搬入で元請職長、揚重業者責任者、玉掛け者が別々の指示を出している。最も適切な体制はどれか。

- ア．作業計画で役割と指揮・合図系統を明確にし、誰が判断し誰が合図するかを作業前に統一する。
- イ．各責任者が自由に指示し運転者が選ぶ。
- ウ．指揮系統は明文化しない。
- エ．作業員ごとに別の合図方法を認める。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。多業者作業では役割・合図・指揮系統の明確化が必要である。
- イ：誤り。指示競合は誤操作につながる。
- ウ：誤り。事前整理が必要である。
- エ：誤り。合図は統一する。

総合解説：多業者作業では役割・合図・指揮系統の明確化が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

問題：施工途中で高所作業車を別機種へ変更し、到達範囲や機体寸法が変わった。最も適切な対応はどれか。

- ア．同種機械なので旧計画をそのまま使う。
- イ．新機種の能力・作業範囲・設置条件を確認し、接触・転倒・墜落リスクを再評価して計画を更新する。
- ウ．操作できれば設置条件確認は不要である。
- エ．書類だけ変更し作業者には旧手順で作業させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。仕様差がリスクに影響する。
- イ：正しい。機械変更は作業条件の変更であり安全計画へ反映する。
- ウ：誤り。操作技能だけでは足りない。
- エ：誤り。変更内容を現場へ周知する。

総合解説：機械変更は作業条件の変更であり安全計画へ反映する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

問題：労働災害防止における保護具の位置づけとして、最も適切なものはどれか。

- ア．災害発生後の救護時だけ使用する。
- イ．保護具を支給すれば設備対策は不要になる。
- ウ．危険源の除去や設備上の対策を検討したうえで、残るリスクに応じて適切な保護具を使用する。
- エ．本人が希望した場合だけ使用する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。作業中の危険から保護する。
- イ：誤り。保護具だけで代替できない。
- ウ：正しい。保護具は他の低減措置と組み合わせて用いる。
- エ：誤り。必要な保護具は計画的に使用させる。

総合解説：保護具は他の低減措置と組み合わせて用いる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

問題：明り掘削作業で、物体の飛来・落下による危険を防止するための措置として適切なものはどれか。

- ア．本人が希望しなければ不要である。
- イ．保護帽の使用は禁止される。
- ウ．監督者だけが着用すればよい。
- エ．事業者は作業者に保護帽を着用させ、作業者も着用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。必要な保護具は任意ではない。
- イ：誤り。危険防止のため使用する。
- ウ：誤り。作業従事者の保護が必要である。
- エ：正しい。労働安全衛生規則は明り掘削で保護帽の着用を求めている。

総合解説：労働安全衛生規則は明り掘削で保護帽の着用を求めている。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

問題：高さ7.0mの箇所で墜落制止用器具を使用する場合、規格上の選択として適切なものはどれか。

- ア．フルハーネス型墜落制止用器具を使用する。
- イ．高さ10mを超えるまで墜落制止用器具は不要である。
- ウ．一本つり胴ベルト型だけを使用する。
- エ．U字つり用胴ベルトだけを墜落制止用器具として使う。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。6.75mを超える高さではフルハーネス型を使用する。
- イ：誤り。10m基準ではない。
- ウ：誤り。6.75m超ではフルハーネス型が必要である。
- エ：誤り。U字つり用胴ベルトは墜落制止用器具ではない。

総合解説：6.75mを超える高さではフルハーネス型を使用する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

問題：フルハーネス型墜落制止用器具に係る特別教育が法令上必要となる業務として、最も適切なものはどれか。

- ア．高さ2m以上を単に通行・昇降するだけのすべての行為。
- イ．高さ2m以上で作業床を設けることが困難な箇所において、フルハーネス型を用いて行う作業。
- ウ．高さ1mの床上で行うすべての作業。
- エ．作業床上でフルハーネスを着けるすべての作業。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。単なる通行・昇降のみは対象外とされる。
- イ：正しい。高さ2m以上かつ作業床の設置が困難な箇所での対象作業が特別教育の対象である。
- ウ：誤り。高さ1mという条件ではない。
- エ：誤り。作業床があるだけで一律対象ではない。

総合解説：高さ2m以上かつ作業床の設置が困難な箇所での対象作業が特別教育の対象である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

問題：吊り荷が通過する区域の立入管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．範囲を示さず口頭注意だけで運用する。
- イ．短時間なら自由に横断させる。
- ウ．落下・接触のおそれがある範囲を明確にし、バリケードや監視等で関係者以外の立入りを防止する。
- エ．保護帽があれば吊り荷直下へ入れてよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。明確な区域管理が必要である。
- イ：誤り。短時間でも危険である。
- ウ：正しい。危険区域を明確化し、立入りを防ぐ必要がある。
- エ：誤り。保護帽で吊り荷の危険は除去できない。

総合解説：危険区域を明確化し、立入りを防ぐ必要がある。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせて危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

問題：高所配管作業で使用する墜落制止用器具について、最も適切な管理はどれか。

- ア．体格に合わなくても調整せず使う。
- イ．どの高さでも同じランヤードを無条件に使う。
- ウ．著しい損傷があっても墜落歴がなければ使う。
- エ．作業高さ、取付設備、使用者の体重・装備等に適合する器具を選び、使用前に損傷や接続部を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。身体へ適切に適合させる。
- イ：誤り。高さや取付位置に応じて選ぶ。
- ウ：誤り。損傷品は使用しない。
- エ：正しい。使用条件へ適合する器具を正しく装着・点検する。

総合解説：使用条件へ適合する器具を正しく装着・点検する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせて危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

問題：機械室の一部を立入禁止にした結果、非常口への通路まで塞がれる計画になっている。最も適切な対応はどれか。

- ア．危険区域への立入りは防止しつつ、安全な避難・通行経路を別途確保するよう区画を見直す。
- イ．危険区域を解除して誰でも通行させる。
- ウ．立入禁止を優先し非常口が塞がれてもよい。
- エ．非常口が使えないことを知らせず工事する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。危険区域管理と避難経路の確保を両立させる。
- イ：誤り。危険区域管理は維持する。
- ウ：誤り。避難経路も重要である。
- エ：誤り。周知と代替経路が必要である。

総合解説：危険区域管理と避難経路の確保を両立させる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

問題：天井配管の切断作業で、切粉の飛散と工具落下、下階への第三者立入りのおそれがある。最も適切な対策はどれか。

- ア．注意喚起だけで落下防止も区画も行わない。
- イ．保護眼鏡等を使用し、工具・材料の落下防止を行い、下方を立入禁止として第三者の侵入を防ぐ。
- ウ．保護眼鏡だけ使い下方は管理しない。
- エ．下方を立入禁止にするだけで目の保護はしない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。注意だけでは不十分である。
- イ：正しい。作業者保護、落下源対策、第三者立入管理を組み合わせる。
- ウ：誤り。第三者への落下リスクが残る。
- エ：誤り。作業者の飛散物リスクが残る。

総合解説：作業者保護、落下源対策、第三者立入管理を組み合わせる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

問題：高さ2m以上の作業床の端や開口部で墜落のおそれがある場合の基本的な措置として、最も適切なものはどれか。

- ア．熟練者なら墜落防止措置は不要である。
- イ．注意表示だけで手すりや覆いは不要である。
- ウ．囲い、手すり、覆い等を設けるなどして墜落を防止し、必要に応じ墜落制止用器具を使用させる。
- エ．作業時間が短ければ開口部を無防護にできる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。熟練度によらず必要である。
- イ：誤り。表示だけでは物理的に防げない。
- ウ：正しい。高所の端・開口部では物的な墜落防止を基本に、必要な保護具を併用する。
- エ：誤り。短時間でも無防護にできない。

総合解説：高所の端・開口部では物的な墜落防止を基本に、必要な保護具を併用する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

問題：足場の使用管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．積載荷重は作業者が感覚で判断する。
- イ．一時置きなら最大積載荷重を超えてよい。
- ウ．最大積載荷重は管理者だけが知っていればよい。
- エ．構造・材料に応じて最大積載荷重を定め、見やすい場所に表示し、その荷重を超えて使用しない。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。客観的な荷重管理が必要である。
- イ：誤り。一時的でも過積載は危険である。
- ウ：誤り。作業者が認識できる表示が必要である。
- エ：正しい。足場の過積載防止のため最大積載荷重を定めて表示する。

総合解説：足場の過積載防止のため最大積載荷重を定めて表示する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

問題：足場で作業を行う日の作業開始前に確認すべき事項として、適切なものはどれか。

- ア．作業箇所の足場用墜落防止設備の取り外しや脱落の有無を点検する。
- イ．年1回だけ点検すればよい。
- ウ．足場の点検は解体後だけ行う。
- エ．床面清掃だけ行い墜落防止設備は見ない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。その日の作業開始前に作業箇所の墜落防止設備の状態を点検する。
- イ：誤り。日常点検が必要である。
- ウ：誤り。使用中の安全確認が必要である。
- エ：誤り。脱落等を確認する。

総合解説：その日の作業開始前に作業箇所の墜落防止設備の状態を点検する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

問題：強風、大雨、大雪等の悪天候や中震以上の地震の後に足場で作業を再開する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．大きな変形が見えなければ点検不要である。
- イ．点検者を指名し、床材、緊結部、補強材、墜落防止設備等を点検し、異常があれば補修する。
- ウ．遠くから眺めるだけで点検を終える。
- エ．異常があっても軽作業なら使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。所定の点検が必要である。
- イ：正しい。悪天候・地震等の後は各部を点検し、異常を是正してから使用する。
- ウ：誤り。必要箇所を確認する。
- エ：誤り。異常は補修する。

総合解説：悪天候・地震等の後は各部を点検し、異常を是正してから使用する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

問題：配管搬入のため足場の手すりを一時的に取り外し、その後復旧した。作業再開時の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．一度取り外しただけなので点検しない。
- イ．翌週の定期点検まで待つ。
- ウ．復旧状態を点検し、手すり等の墜落防止設備が確実に取り付けられていることを確認してから再開する。
- エ．手すりがなくても墜落制止用器具を持っていればよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。変更は安全性へ影響する。
- イ：誤り。再開前に確認する。
- ウ：正しい。足場の一部解体・変更後は再開前に点検する。
- エ：誤り。設備の復旧確認が必要である。

総合解説：足場の一部解体・変更後は再開前に点検する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

問題：足場上で配管工具を使用し、下方に別作業員がいる場合の対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．小さい工具なら落下防止は不要である。
- イ．下方作業員が保護帽なら工具を床端に置いてよい。
- ウ．終了後に落下物を確認するだけでよい。
- エ．工具の落下防止措置を講じ、必要に応じ下方を立入禁止とする。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。小物でも危険である。
- イ：誤り。保護帽だけに依存しない。
- ウ：誤り。予防が必要である。
- エ：正しい。落下源対策と下方の立入管理を組み合わせる。

総合解説：落下源対策と下方の立入管理を組み合わせる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

問題：高所作業車のバスケット内で作業する場合のフルハーネス特別教育に関する説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．通常、バスケットは作業床とみなされるため、バスケット内作業という理由だけで特別教育が一律に必要となるわけではない。
イ．高所作業車を使う全員が高さに関係なく特別教育対象である。
ウ．バスケット内では墜落制止用器具の条件を考えなくてよい。
エ．高所作業車では作業床という概念はない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。特別教育の対象条件と墜落制止用器具の使用条件は区別する。
イ：誤り。法令上の対象条件で判断する。
ウ：誤り。高さ等に応じた措置は必要である。
エ：誤り。バスケットは通常作業床と扱われる。

総合解説：特別教育の対象条件と墜落制止用器具の使用条件は区別する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

問題：フルハーネス型墜落制止用器具のランヤード選定で考慮すべき事項として、最も適切なものはどれか。

- ア．ランヤードは長いほど常に安全である。
イ．作業箇所の高さ、取付設備の位置、自由落下距離や落下距離を考慮する。
ウ．取付位置が足元でも頭上でも落下距離は同じである。
エ．作業者の体重や装備品の質量は関係しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。長すぎると落下距離が増える。
イ：正しい。取付高さやランヤード長等に応じた落下距離を考慮する。
ウ：誤り。取付位置で変わる。
エ：誤り。体重・装備品も考慮する。

総合解説：取付高さやランヤード長等に応じた落下距離を考慮する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

問題：床開口部の覆いを配管搬入のため一時撤去する必要がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．撤去中も周囲を自由通行とする。
- イ．覆いは置くだけで固定しなくてよい。
- ウ．撤去中は周囲を確実に立入管理し、作業後は速やかに覆いを復旧して固定状態を確認する。
- エ．開口部が見えるので立入管理は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。転落防止の立入管理が必要である。
- イ：誤り。ずれ防止が必要である。
- ウ：正しい。代替措置と確実な復旧が必要である。
- エ：誤り。見えるだけでは防げない。

総合解説：代替措置と確実な復旧が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

問題：配管材を足場上へ仮置きする際の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．平均荷重が小さければ一箇所への集中積載はよい。
- イ．通路を塞いでも短時間ならよい。
- ウ．最大積載荷重の表示は搬入時に考慮しない。
- エ．最大積載荷重、資材重量と集中荷重、通路確保を確認し、荷重が偏らないよう配置する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。局部的荷重も危険である。
- イ：誤り。通路を確保する。
- ウ：誤り。搬入時こそ確認する。
- エ：正しい。過積載、荷重偏り、通路閉塞を防ぐ。

総合解説：過積載、荷重偏り、通路閉塞を防ぐ。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

問題：屋外足場で風が強まり、養生シートが大きくあおられて安定した作業が困難になった。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業を中止して退避し、気象条件と足場・シートの状態を確認して安全確保後に再開する。
- イ．工程が遅れているので続ける。
- ウ．作業員を増やしてシートを手で押さえる。
- エ．風が弱まった瞬間だけ点検なしで作業する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。墜落・倒壊・飛散リスクが高まる場合は中止・再点検する。
- イ：誤り。安全を優先する。
- ウ：誤り。危険曝露を増やす。
- エ：誤り。設備状態の確認が必要である。

総合解説：墜落・倒壊・飛散リスクが高まる場合は中止・再点検する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

問題：足場の組立て等作業主任者の選任が必要となる作業の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．高さ1m以上のすべての脚立作業が必要である。
- イ．つり足場、張出し足場又は高さ5m以上の足場の組立て・解体・変更の作業では、所定の資格者から作業主任者を選任する。
- ウ．足場を使用するだけの全作業が必要である。
- エ．足場の清掃だけでも必ず必要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。脚立作業一般の規定ではない。
- イ：正しい。法令上の対象となる足場の組立て等作業で選任する。
- ウ：誤り。使用だけと組立て等は異なる。
- エ：誤り。清掃だけを対象とする規定ではない。

総合解説：法令上の対象となる足場の組立て等作業で選任する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

問題：高さ6.75mを超える足場の作業床上で作業する場合について、最も適切な説明はどれか。

- ア．作業床があれば手すりがなくともよい。
- イ．6.75mを超えても胴ベルト型だけを使える。
- ウ．手すり等の墜落防止措置を適切に設けることが基本で、墜落制止用器具が必要な場面ではフルハーネス型を選定する。
- エ．フルハーネスを着ければ足場点検や手すりは不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。端部には措置が必要である。
- イ：誤り。6.75m超ではフルハーネス型が必要である。
- ウ：正しい。設備による墜落防止を基本に、器具使用時は高さ条件に適合させる。
- エ：誤り。保護具は足場管理を代替しない。

総合解説：設備による墜落防止を基本に、器具使用時は高さ条件に適合させる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

問題：高さ8mの設備架台上で配管接続を行う。作業床の一部に開口があり、下方では別作業が予定されている。最も適切な安全計画はどれか。

- ア．フルハーネスだけ着用し開口部や下方は管理しない。
- イ．開口部だけ覆い工具落下は考えない。
- ウ．下方作業者に保護帽だけ着用させる。
- エ．開口部に覆い・手すり等を設け、必要箇所ではフルハーネス型を適切に使用し、工具落下防止と下方立入管理を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。開口部・落下物リスクが残る。
- イ：誤り。落下物対策も必要である。
- ウ：誤り。高所側で発生源対策を行う。
- エ：正しい。墜落・落下物・第三者被災の複数リスクへ重層的に対策する。

総合解説：墜落・落下物・第三者被災の複数リスクへ重層的に対策する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

問題：明り掘削を行う前に地山について調査すべき事項として、最も適切なものはどれか。

- ア．地山の形状、地質・地層、き裂、含水・湧水、埋設物等の状態。
- イ．掘削機械の塗装色だけ。
- ウ．完成後の設備運転時間だけ。
- エ．作業員の通勤経路だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。掘削前に地質、水、埋設物等を把握する。
- イ：誤り。崩壊リスク判断に関係しない。
- ウ：誤り。掘削前調査事項ではない。
- エ：誤り。地山調査事項ではない。

総合解説：掘削前に地質、水、埋設物等を把握する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせ
て危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

問題：明り掘削で地山の崩壊を防ぐための点検時期として、適切なものはどれか。

- ア．大雨後は点検を省略する。
- イ．その日の作業開始前、大雨の後、中震以上の地震の後などに、浮石・き裂・含水・湧水等を点検する。
- ウ．作業終了後だけ点検する。
- エ．工事着手日に一度だけ点検する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。大雨は崩壊リスクを高める。
- イ：正しい。地山条件は天候・地震で変化するため作業前や異常後に点検する。
- ウ：誤り。開始前確認が重要である。
- エ：誤り。日々の確認が必要である。

総合解説：地山条件は天候・地震で変化するため作業前や異常後に点検する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・
作業管理を組み合わせ
て危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

問題：土止め支保工に用いる材料として、適切なものはどれか。

- ア．変形した切りばりを無理に戻してそのまま使う。
- イ．損傷を確認せず保管期間だけで判断する。
- ウ．著しい損傷、変形又は腐食がなく、必要な強度を確保できる材料。
- エ．著しく腐食していても使用する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。著しい変形品を安易に使わない。
- イ：誤り。実際の状態を確認する。
- ウ：正しい。地山の荷重を支えるため健全な材料が必要である。
- エ：誤り。腐食は強度低下につながる。

総合解説：地山の荷重を支えるため健全な材料が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせて危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

問題：土止め支保工の構造を決める際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．湧水は計画に影響しない。
- イ．埋設物があるほど支保工の検討を省略する。
- ウ．すべての現場で同じ構造に固定する。
- エ．地山の形状、地質・地層、き裂、含水・湧水、埋設物等の状態に応じて堅固な構造とする。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。湧水は安定性へ影響する。
- イ：誤り。埋設物も考慮する。
- ウ：誤り。画一的では適合しない場合がある。
- エ：正しい。現場条件に応じた構造が必要である。

総合解説：現場条件に応じた構造が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせて危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

問題：掘削溝の縁に掘削土や重量資材を大量に仮置きすることの問題として、最も適切なものはどれか。

- ア．上載荷重が増えて地山や土止めへの荷重を増大させ、崩壊リスクを高めるおそれがある。
- イ．重量物は一箇所に集中させるほど安全である。
- ウ．縁の荷重は地山安定に影響しない。
- エ．元の土なので荷重は増えない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。掘削縁周辺の荷重は地山・支保工に影響する。
- イ：誤り。集中荷重は危険になり得る。
- ウ：誤り。安定性へ影響する。
- エ：誤り。地表へ載せれば上載荷重となる。

総合解説：掘削縁周辺の荷重は地山・支保工に影響する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

問題：掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削作業について、適切な安全管理はどれか。

- ア．手掘りなら2m以上でも一切不要である。
- イ．所定の技能講習修了者から地山の掘削作業主任者を選任し、作業方法の決定や直接指揮等を行わせる。
- ウ．名前だけ借りて現場に来なくてもよい。
- エ．作業主任者は不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。対象条件で判断する。
- イ：正しい。対象作業では資格を有する作業主任者が所定の職務を行う。
- ウ：誤り。直接指揮等の実務が必要である。
- エ：誤り。対象作業では必要である。

総合解説：対象作業では資格を有する作業主任者が所定の職務を行う。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

問題：掘削溝の側面に新たなき裂が発生し、切りばりにも変位が見られる。最も適切な対応はどれか。

- ア．切りばりを戻すだけで原因を見ない。
- イ．掘削速度を上げて早く終わらせる。
- ウ．作業者を退避させ、地山・支保工を点検し、必要な補強・方法見直しを行って安全確認後に再開する。
- エ．細いき裂なら翌日まで続ける。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。原因確認が必要である。
- イ：誤り。危険状態で速度を上げない。
- ウ：正しい。き裂や支保工変位は崩壊兆候として扱う。
- エ：誤り。進行前に対応する。

総合解説：き裂や支保工変位は崩壊兆候として扱う。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせ、危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

問題：掘削中に湧水量が急増し、掘削底が軟化してきた。最も適切な対応はどれか。

- ア．掘りやすくなったとして作業を続ける。
- イ．長靴を防水仕様にするだけで続ける。
- ウ．水だけ排出し地山への影響は見ない。
- エ．作業を一時中止し、排水方法、地山安定、土止めへの影響を再評価して必要な補強等を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。軟化は崩壊リスクを高める。
- イ：誤り。保護具だけでは防げない。
- ウ：誤り。構造安全も確認する。
- エ：正しい。湧水は地山・支保工の安定を変えるため総合的に確認する。

総合解説：湧水は地山・支保工の安定を変えるため総合的に確認する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせ、危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

問題：狭い掘削箇所でバックホウと手元作業員が同時に作業する必要がある。最も適切な計画はどれか。

- ア．機械の作業半径・死角を考慮して立入範囲を定め、必要に応じ誘導者を配置し、機械と人の作業を分離・調整する。
- イ．保護帽を着ければ接触防止は不要である。
- ウ．誘導者がいても合図は各人の自由とする。
- エ．熟練運転者なら作業半径内へ自由に入れる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。立入管理・誘導・作業分離を組み合わせる。
- イ：誤り。保護帽は接触を防がない。
- ウ：誤り。合図は統一する。
- エ：誤り。死角リスクは残る。

総合解説：立入管理・誘導・作業分離を組み合わせる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

問題：深い配管ピットで、雨天後に含水量が増え、掘削縁には資材が積まれ、土止めの一部に緩みがある。最も適切な対応はどれか。

- ア．雨天後は地山が締まるとみなす。
- イ．作業を中止し、資材を移し、地山と土止めを点検・補修し、排水を含む施工計画を再確認する。
- ウ．作業員数を減らせれば設備対策は不要である。
- エ．緩みだけ締め直し他はそのままにする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。含水量増加は不安定化し得る。
- イ：正しい。荷重・水・支保工の複数要因を総合的に是正する。
- ウ：誤り。人数だけでは崩壊を防げない。
- エ：誤り。他のリスクが残る。

総合解説：荷重・水・支保工の複数要因を総合的に是正する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

問題：移動式クレーンを使用する際の定格荷重について、最も適切なものはどれか。

- ア．短時間なら20%まで超えてよい。
- イ．運転者だけ知っていればよい。
- ウ．定格荷重を超える荷重をかけて使用してはならず、運転者・玉掛け者が定格荷重を把握できるようにする。
- エ．外観から推定してよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。定格荷重を超えて使用しない。
- イ：誤り。玉掛け者も把握できるようにする。
- ウ：正しい。過負荷防止と定格荷重の周知が基本である。
- エ：誤り。所定の表示等で確認する。

総合解説：過負荷防止と定格荷重の周知が基本である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

問題：クレーン運転の合図に関する管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業者ごとに異なる合図を認める。
- イ．見えない場所でも合図者を定めない。
- ウ．荷が動いてから合図を考える。
- エ．一定の合図を定め、必要な場合は合図者を指名して、その者に合図を行わせる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。不統一は事故要因となる。
- イ：誤り。連携手段が必要である。
- ウ：誤り。作業前に定める。
- エ：正しい。合図の統一は誤操作防止に重要である。

総合解説：合図の統一は誤操作防止に重要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

問題：移動式クレーンの設置場所として最も適切なものはどれか。

- ア．地盤支持力や水平性を確認し、必要なアウトリガ張出し・敷板等により安定性を確保できる場所。
- イ．埋戻し直後の軟弱地盤へ無確認で設置する。
- ウ．傾斜地ほどアウトリガを縮める。
- エ．マンホール蓋上へ強度確認なしで載せる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。転倒防止には地盤・水平・支持条件の確認が不可欠である。
- イ：誤り。沈下・転倒のおそれがある。
- ウ：誤り。機械仕様に従う。
- エ：誤り。支持条件を確認する。

総合解説：転倒防止には地盤・水平・支持条件の確認が不可欠である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

問題：玉掛け用ワイヤロープの使用可否判断として、最も適切なものはどれか。

- ア．キンクしていても軽い荷なら使う。
- イ．キンク、著しい形崩れ・腐食、規定を超える素線切断や径の減少などがないか点検し、不適格品を使用しない。
- ウ．腐食があっても油を塗れば使える。
- エ．素線切断は本数に関係なく無視する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。キンクは使用禁止条件の一つである。
- イ：正しい。法令上の不適格条件に該当する用具を使用しない。
- ウ：誤り。油で強度は回復しない。
- エ：誤り。素線切断の程度は判断要素である。

総合解説：法令上の不適格条件に該当する用具を使用しない。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

問題：大型空調機を吊り上げている最中、作業員が近道のため吊り荷の真下を通ろうとしている。最も適切な対応はどれか。

- ア．保護帽なら通行を認める。
- イ．吊り荷が静止中だけ通行させる。
- ウ．吊り荷の落下等により危険が及ぶ範囲への立入りを防止し、安全な迂回路を使用させる。
- エ．本人が了承すれば通行させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。保護帽で十分ではない。
- イ：誤り。予期せぬ挙動がある。
- ウ：正しい。吊り荷下への立入りは重大災害につながるため防止する。
- エ：誤り。本人同意で解除できない。

総合解説：吊り荷下への立入りは重大災害につながるため防止する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

問題：2本吊りで吊り角度が大きくなり、各ワイヤロープが水平に近づく場合の一般的傾向として、最も適切なものはどれか。

- ア．張力はゼロに近づく。
- イ．吊り角度は張力に影響しない。
- ウ．水平に近いほど安全率が高くなる。
- エ．各ロープに生じる張力が増大するため、吊り角度を含めた玉掛け計画が必要になる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。張力は増大する。
- イ：誤り。角度は張力へ影響する。
- ウ：誤り。水平に近い吊りは危険である。
- エ：正しい。吊り角度が大きいくほど脚ごとの張力は増える。

総合解説：吊り角度が大きいくほど脚ごとの張力は増える。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

問題：移動式クレーンのジブが高圧架空線へ接近する可能性がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．架空線の位置・管理者・必要な離隔等を確認し、作業範囲制限や監視・防護等を計画する。
- イ．運転者が目視できれば事前対策不要である。
- ウ．ゴムタイヤ式なら感電しない。
- エ．接触してから管理者へ連絡する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。架空線近接作業は事前調査と接近防止措置が必要である。
- イ：誤り。目視だけに依存しない。
- ウ：誤り。感電・アーク事故が起こり得る。
- エ：誤り。事故前の予防が必要である。

総合解説：架空線近接作業は事前調査と接近防止措置が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

問題：屋上へ冷凍機を揚重する計画で、荷重は定格内だが設置地盤が軟弱で、歩行者通路上空を荷が通過し、合図者も未定である。最も適切な対応はどれか。

- ア．定格内なのでそのまま実施する。
- イ．地盤支持・配置を見直し、第三者立入を防止し、合図者と合図方法を定めるなど全体条件を整えてから実施する。
- ウ．注意看板だけで歩行者通行を認める。
- エ．地盤条件は運転技量で補える。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。他の重大リスクが残る。
- イ：正しい。支持地盤・第三者・合図を含む総合的な揚重計画が必要である。
- ウ：誤り。危険範囲は立入管理する。
- エ：誤り。軟弱地盤は技量だけで補えない。

総合解説：支持地盤・第三者・合図を含む総合的な揚重計画が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

問題：建設工事の公衆災害防止で主に保護すべき対象として、最も適切なものはどれか。

- ア．現場内の作業員だけで第三者は対象外。
- イ．完成後の設備利用者だけで施工中の通行人は対象外。
- ウ．工事関係者以外の歩行者・住民・道路利用者や、周辺の家屋・道路・公共施設等。
- エ．工事会社の経理担当者だけ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。第三者の安全確保が中心である。
- イ：誤り。施工中の通行人も対象である。
- ウ：正しい。公衆災害防止は第三者の生命・身体・財産や公共施設等への危害防止を目的とする。
- エ：誤り。対象は限定されない。

総合解説：公衆災害防止は第三者の生命・身体・財産や公共施設等への危害防止を目的とする。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

問題：市街地の工事現場で仮囲いを設ける主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事関係者が公道を近道しやすくするため。
- イ．資材の最大積載荷重を増やすため。
- ウ．騒音を完全にゼロにするため。
- エ．工事区域と公衆の通行区域を分離し、第三者の不用意な立入りや工事に伴う危害を防止する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。安全な分離が目的である。
- イ：誤り。積載荷重とは関係しない。
- ウ：誤り。騒音を完全にゼロにはできない。
- エ：正しい。仮囲いは工事区域を明確にし、公衆との分離を図る。

総合解説：仮囲いは工事区域を明確にし、公衆との分離を図る。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

問題：道路沿いの建物上部で配管作業を行う場合、第三者への落下物対策として最も適切なものはどれか。

- ア．工具・材料の落下防止を行い、必要な防護柵・ネット・立入規制等で通行者への危害を防止する。
- イ．軽いボルトは危険でないので自由に置く。
- ウ．作業員の保護帽だけ強化し道路側対策はしない。
- エ．通行者が見上げれば避けられるので対策不要。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。発生源・経路・立入管理を組み合わせる。
- イ：誤り。小物でも高所落下は危険である。
- ウ：誤り。公衆側への対策が必要である。
- エ：誤り。通行者へ依存してはならない。

総合解説：発生源・経路・立入管理を組み合わせる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせ、危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

問題：周辺住民や施設利用者への工事周知として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事関係者だけが予定を知ればよい。
- イ．工事期間、作業時間、通行変更、周辺への影響、緊急連絡先など必要な情報を事前に分かりやすく周知する。
- ウ．通行変更があっても現地表示はしない。
- エ．苦情が発生するまで知らせない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。公衆へ必要情報を提供する。
- イ：正しい。事前周知は第三者の安全な行動と理解に役立つ。
- ウ：誤り。現場表示も必要である。
- エ：誤り。影響が予想される場合は事前周知が重要である。

総合解説：事前周知は第三者の安全な行動と理解に役立つ。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせ、危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

問題：工事で既存歩道の一部を閉鎖し、仮設歩行者通路を設ける場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．資材を置いて通路を狭めても表示しない。
- イ．夜間は作業していなければ表示や照明は不要である。
- ウ．歩行者が車両や工事区域と安全に分離され、段差・障害物・夜間視認性にも配慮した連続した通路を確保する。
- エ．途中で通路がなくなっても車道へ出てもらう。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。安全な代替措置が必要である。
- イ：誤り。夜間も利用を考慮する。
- ウ：正しい。歩行者通路は連続性、分離、視認性を確保する。
- エ：誤り。危険な車道へ無計画に誘導しない。

総合解説：歩行者通路は連続性、分離、視認性を確保する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

問題：強風が予想される日に、屋外で軽量の保温材や養生シートを仮置きしている。第三者災害防止として最も適切な対応はどれか。

- ア．現場外へ飛散してから回収する。
- イ．一端だけ軽く置石で押さえ風速を確認しない。
- ウ．軽量なので飛んでも危険は小さいとして放置する。
- エ．飛散しないよう固定・収納し、風の状況に応じて作業中止や追加養生を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。事後対応では防止にならない。
- イ：誤り。確実な固定が必要である。
- ウ：誤り。交通事故の原因になり得る。
- エ：正しい。飛散物は道路利用者等へ危害を与えるため事前に固定・収納する。

総合解説：飛散物は道路利用者等へ危害を与えるため事前に固定・収納する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

問題：工事車両の出入口が歩道を横断する現場で、最も適切な第三者安全対策はどれか。

- ア．歩行者の視認性を確保し、必要に応じ誘導員を配置して車両と歩行者の交錯を管理する。
イ．運転者が見える範囲だけ確認して出庫する。
ウ．歩道に資材を置き歩行者を車道へ出す。
エ．車両を優先し歩行者に常に避けてもらう。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。死角の多い工事車両と歩行者の交錯を誘導等で管理する。
イ：誤り。死角を補う対策が必要である。
ウ：誤り。歩行者を危険な車道へ出さない。
エ：誤り。公衆の安全を確保する。

総合解説：死角の多い工事車両と歩行者の交錯を誘導等で管理する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

問題：夜間も歩行者が通行する工事現場周辺の安全管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．昼間用の紙掲示が暗くて見えなくてもよい。
イ．仮囲い・段差・通路変更等が認識できるよう、必要な照明・反射表示・案内を設ける。
ウ．歩行者のスマートフォンライトを前提に照明を設けない。
エ．作業していなければ障害物の表示は不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。夜間に認識できる表示が必要である。
イ：正しい。作業休止中でも危険が残る場合は夜間視認性を確保する。
ウ：誤り。公衆側の装備へ依存しない。
エ：誤り。夜間の通行もある。

総合解説：作業休止中でも危険が残る場合は夜間視認性を確保する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

問題：近隣住民から『仮囲いが傾いて歩道側へ出ている』との連絡があった。最も適切な対応はどれか。

- ア．翌週の巡回まで何もしない。
- イ．住民に押し戻してもらう。
- ウ．直ちに現場を確認し、必要なら周辺を立入規制して仮囲いを補修し、原因と再発防止を確認する。
- エ．写真がないので無視する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。放置は危険である。
- イ：誤り。第三者に危険作業をさせない。
- ウ：正しい。第三者へ危害が及ぶ可能性のある異常情報は速やかに確認・是正する。
- エ：誤り。重要な安全情報である。

総合解説：第三者へ危害が及ぶ可能性のある異常情報は速やかに確認・是正する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

問題：雨天時、工事車両のタイヤに付着した泥が道路へ持ち出され、路面が滑りやすくなっている。最も適切な対応はどれか。

- ア．工事車両だけ注意すればよい。
- イ．泥が乾くまで無表示で使用する。
- ウ．雨が止めば自然に流れるので放置する。
- エ．車両の泥落としや清掃を行い、路面を速やかに清掃して交通の安全を確保する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。一般道路利用者も保護対象である。
- イ：誤り。危険状態を放置しない。
- ウ：誤り。放置中に事故が起こり得る。
- エ：正しい。工事起因の路面汚損・滑りは第三者交通へ危険を与えるため是正する。

総合解説：工事起因の路面汚損・滑りは第三者交通へ危険を与えるため是正する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

問題：工事中に資材が仮囲い外へ落下し、通行人が負傷した。初動として最も適切なものはどれか。

- ア．救護・二次災害防止を最優先し、必要な通報・関係機関への連絡を行い、現場を保全して原因究明と再発防止につなげる。
- イ．救護より先に写真整理を始める。
- ウ．外部へ知られないよう連絡しない。
- エ．工事を止めず原因調査だけ翌日にする。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。人命救護と二次災害防止を優先し、適切な連絡・記録・再発防止へつなげる。
- イ：誤り。救護と安全確保が最優先である。
- ウ：誤り。必要な通報・連絡を行う。
- エ：誤り。危険が残る状態で継続しない。

総合解説：人命救護と二次災害防止を優先し、適切な連絡・記録・再発防止へつなげる。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

問題：駅前の歩道沿いで、上階から配管を搬入しつつ工事車両も頻繁に出入りする。最も適切な安全計画はどれか。

- ア．工事車両だけ管理し上空からの落下物対策はしない。
- イ．落下物防止、吊り荷通過範囲の立入規制、歩行者の安全な迂回・誘導、車両出入口の誘導を一体的に計画する。
- ウ．注意看板1枚だけで区域分離や誘導はしない。
- エ．吊り作業だけ管理し歩行者と車両の交錯は考えない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。落下リスクが残る。
- イ：正しい。市街地工事では複数の第三者リスクを重ねて管理する。
- ウ：誤り。看板だけでは不十分である。
- エ：誤り。交錯リスクが残る。

総合解説：市街地工事では複数の第三者リスクを重ねて管理する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

問題：道路使用許可制度について、最も適切な説明はどれか。

- ア．建物内作業だけを対象とする。
- イ．工事終了後に申請する制度である。
- ウ．道路において工事や作業を行う行為は、道路交通法第77条に基づく道路使用許可の対象となり得る。
- エ．社会的に必要なら許可なく自由に道路工事できる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。道路の特別使用が対象である。
- イ：誤り。実施前に手続する。
- ウ：正しい。道路で工事・作業を行う行為は道路使用許可の対象に定められている。
- エ：誤り。必要な場合は許可を受ける。

総合解説：道路で工事・作業を行う行為は道路使用許可の対象に定められている。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

問題：道路使用許可を得た工事について、安全管理上最も適切な考え方はどれか。

- ア．許可条件は工程都合で自由に変更できる。
- イ．許可後は道路利用者への配慮が不要である。
- ウ．許可証があれば誘導や標示は不要である。
- エ．許可条件を守ることに加え、交通状況に応じて標示・誘導・区画等の安全措置を実施する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。許可条件を遵守する。
- イ：誤り。第三者安全を確保する。
- ウ：誤り。交通安全措置も必要である。
- エ：正しい。許可取得は安全対策の代替ではない。

総合解説：許可取得は安全対策の代替ではない。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

問題：道路工事現場の標示・案内の主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．道路利用者に工事区間や通行方法を早めに認識させ、安全に減速・進路変更できるようにする。
- イ．一般車両が速く進入できるようにするため。
- ウ．工事車両の駐車場所を増やすため。
- エ．工事関係者だけが場所を確認するため。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。道路利用者へ必要情報を事前に提供する。
- イ：誤り。安全な通行を促す。
- ウ：誤り。駐車確保が主目的ではない。
- エ：誤り。一般利用者への案内が重要である。

総合解説：道路利用者へ必要情報を事前に提供する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせ、危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

問題：片側交互通行で両端の誘導員が互いの状況を確認できない。最も適切な対応はどれか。

- ア．大型車だけ連絡なしで進入させる。
- イ．無線等で相互連絡手段を確保し、通行方向を統一して工事区間内で車両が対向しないよう誘導する。
- ウ．出会ったら区間内でバックさせる前提にする。
- エ．両端が独立して自由に通す。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。統一誘導が必要である。
- イ：正しい。片側交互通行では両端の連携が不可欠である。
- ウ：誤り。対向を前提にしない。
- エ：誤り。対向進入の危険がある。

総合解説：片側交互通行では両端の連携が不可欠である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせ、危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

問題：道路沿い工事で資材搬入車を一時待機させる場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．歩道を完全に塞ぎ歩行者を車道へ出す。
- イ．交差点付近へ無計画に停車させる。
- ウ．交通や歩行者の妨げ・死角を生じない安全な待機場所を事前に確保し、必要な許可・誘導条件に従う。
- エ．横断歩道上で待機させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。歩行者通路を確保する。
- イ：誤り。死角・交通阻害を考慮する。
- ウ：正しい。待機車両も交通・歩行者安全へ影響するため事前計画する。
- エ：誤り。横断歩道を塞がない。

総合解説：待機車両も交通・歩行者安全へ影響するため事前計画する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

問題：夜間に車線規制を伴う工事を行う場合の対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．誘導員を無灯火の場所に立たせる。
- イ．車両のヘッドライトだけに任せる。
- ウ．昼間用標示が暗くて見えなくても使う。
- エ．工事区間・規制・誘導位置が認識できる照明、反射性標示、保安施設等を適切に配置する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。誘導員の被視認性も確保する。
- イ：誤り。工事側で対策する。
- ウ：誤り。夜間に見える標示が必要である。
- エ：正しい。夜間は視認距離が低下するため必要な視認性を確保する。

総合解説：夜間は視認距離が低下するため必要な視認性を確保する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

問題：道路使用許可では車線規制を夜間のみとする条件だったが、工程遅延で昼間にも規制したくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア：許可条件との整合を確認し、必要な変更手続・関係機関との協議を行ってから変更する。
- イ：短時間なら許可条件を無視する。
- ウ：誘導員がいれば変更手続は不要である。
- エ：施工者判断で昼間規制へ変更する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。許可条件の変更は所定の手続・協議を要する。
- イ：誤り。時間だけで無視できない。
- ウ：誤り。誘導員は許可手続の代替ではない。
- エ：誤り。無断変更は適切でない。

総合解説：許可条件の変更は所定の手続・協議を要する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

問題：道路工事で通行規制を行う際、沿道に消防署の出入口がある。最も適切な計画はどれか。

- ア：来た時点で初めて相談する。
- イ：緊急車両の出動を妨げない通行方法を事前に調整し、必要な誘導・一時規制解除の手順を定める。
- ウ：消防署前に資材を置き出動時に移動する。
- エ：緊急車両も一般車両と同じ待ち時間にする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。事前に手順を決める。
- イ：正しい。緊急活動を阻害しない計画が必要である。
- ウ：誤り。即時通行できる状態を確保する。
- エ：誤り。緊急活動への支障を避ける。

総合解説：緊急活動を阻害しない計画が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

問題：駅前道路の工事で歩行者・自転車・一般車両が多い。最も適切な交通管理はどれか。

- ア．自転車だけ工事区域内へ通す。
- イ．クラクションだけで注意を促す。
- ウ．各交通主体の動線をできるだけ分離し、交錯点を減らし、必要な標示・誘導で安全に通行させる。
- エ．全員を同じ狭い通路へ集約する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。無計画な工事区域通行は危険である。
- イ：誤り。警音器だけでは不十分である。
- ウ：正しい。速度・挙動が異なるため動線分離と交錯管理が有効である。
- エ：誤り。混在は接触リスクを高める。

総合解説：速度・挙動が異なるため動線分離と交錯管理が有効である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

問題：片側交互通行の夜間道路工事で、カーブの先に工事区間があり、歩道も一部閉鎖される。最も適切な安全計画はどれか。

- ア．車両誘導だけ行い歩行者は車道端を通す。
- イ．歩行者通路だけ確保し車両誘導の連携はしない。
- ウ．工事区間直前だけに看板を置く。
- エ．十分手前から規制を認識できる標示を設け、両端誘導を連携させ、安全な仮設歩行者通路と夜間照明・反射表示を確保する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。歩行者通路を確保する。
- イ：誤り。対向進入防止の連携が必要である。
- ウ：誤り。余裕ある予告が必要である。
- エ：正しい。見通し・夜間・歩行者・車両規制を総合して対策する。

総合解説：見通し・夜間・歩行者・車両規制を総合して対策する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

問題：道路や敷地内を掘削する前の地下埋設物対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．図面・台帳・現地標示等を確認し、必要に応じ埋設物管理者と協議して位置・深さ・種類を把握する。
- イ．掘削機械で掘り当ててから確認する。
- ウ．既設建物敷地内なら埋設物はないとみなす。
- エ．図面があれば現地確認は一切不要である。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。施工前に位置・種類・管理者等を把握することが基本である。
- イ：誤り。破損事故につながる。
- ウ：誤り。敷地内にも埋設物があり得る。
- エ：誤り。図面と現地の照合が必要である。

総合解説：施工前に位置・種類・管理者等を把握することが基本である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

問題：地下埋設物の位置が確認された後、その近傍を掘削する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．位置が分かったので接触するまで機械掘削する。
- イ．管理者との協議内容や現地条件に従い、必要な試掘・手掘り・防護・監視等で損傷を防止する。
- ウ．古い埋設管なら対策不要である。
- エ．標示板があれば作業者への周知は不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。慎重な施工が必要である。
- イ：正しい。位置確認後も損傷させない施工方法と管理が必要である。
- ウ：誤り。既設物を保護する必要がある。
- エ：誤り。作業者へ確実に伝える。

総合解説：位置確認後も損傷させない施工方法と管理が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

問題：地下埋設物の事故防止に有効な現場管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．管理者だけが知っていればよい。
- イ．口頭で一度伝えれば変更時も再周知しない。
- ウ．埋設物の位置・深さ・名称・管理者連絡先等を現場で認識できるよう表示・記録し、工事関係者へ伝達する。
- エ．管理者の連絡先は事故後に調べる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。作業者へ伝える必要がある。
- イ：誤り。変更情報を更新して周知する。
- ウ：正しい。位置と保安上必要な情報を現場で共有する。
- エ：誤り。事前把握が必要である。

総合解説：位置と保安上必要な情報を現場で共有する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

問題：掘削中に誤ってガス管を損傷し、ガス臭が確認された。最も適切な初動はどれか。

- ア．ライターの火で漏れ位置を確認する。
- イ．掘削を継続する。
- ウ．臭いが弱ければ土をかぶせて連絡しない。
- エ．火気を排除して危険区域から退避・立入規制し、埋設物管理者や必要な関係機関へ速やかに連絡する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。爆発・火災の原因となる。
- イ：誤り。漏えい拡大の危険がある。
- ウ：誤り。隠さず速やかに連絡する。
- エ：正しい。着火源排除、退避、立入規制、迅速な管理者連絡が重要である。

総合解説：着火源排除、退避、立入規制、迅速な管理者連絡が重要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

問題：高圧架空線の近くで長尺配管をクレーン搬入する場合、最も適切な事前対策はどれか。

- ア．架空線の位置・電圧・管理者を確認し、必要な離隔、作業範囲制限、監視・防護等を調整する。
- イ．直接触れなければアークは起きないため対策不要である。
- ウ．運転者が見えるので作業計画に記載しない。
- エ．架空線高さは目測だけで決める。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。接触・接近による感電等を防ぐため事前調査と管理者協議が必要である。
- イ：誤り。接近でも危険がある。
- ウ：誤り。重大リスクとして計画へ反映する。
- エ：誤り。正確な条件を確認する。

総合解説：接触・接近による感電等を防ぐため事前調査と管理者協議が必要である。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

問題：試掘の結果、埋設管が図面記載位置からずれていることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．図面が正しいものとして実物位置を無視する。
- イ．実測位置を確認・記録し、管理者や関係者へ共有して、今後の掘削範囲・方法を見直す。
- ウ．現場作業員だけで把握し他班へ知らせない。
- エ．無断で埋設管を移設する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。実物位置に基づき見直す。
- イ：正しい。現地確認結果を後続作業へ反映する。
- ウ：誤り。後続作業者にも共有する。
- エ：誤り。管理者との協議が必要である。

総合解説：現地確認結果を後続作業へ反映する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

問題：クレーン作業終了後、ジブを上げたまま架空線の下を移動しようとしている。
最も適切な対応はどれか。

- ア．吊り作業終了後は架空線リスクを考えない。
- イ．速度を上げて短時間で通過する。
- ウ．移動経路と架空線高さを確認し、機械を安全な走行姿勢にして必要な離隔を確保できる方法で移動する。
- エ．誘導者がいればジブ姿勢は確認しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。移動時も危険である。
- イ：誤り。速度は安全対策にならない。
- ウ：正しい。機械移動中にも接触・接近事故は起こり得る。
- エ：誤り。誘導と安全姿勢の双方が必要である。

総合解説：機械移動中にも接触・接近事故は起こり得る。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

問題：道路沿いの深掘り配管工事で、掘削箇所にはガス管、上空には高圧架空線があり、移動式クレーンを使用する。最も適切な施工前対応はどれか。

- ア．地下埋設物だけ確認し架空線は運転者へ任せる。
- イ．架空線だけ確認しガス管は図面にあるので試掘しない。
- ウ．両者は別の危険なので相互影響を考えない。
- エ．埋設物・架空線の管理者と位置・保安条件を確認し、試掘・掘削方法、クレーン配置・作業範囲、緊急連絡を統合した計画を作成する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。架空線も重大リスクである。
- イ：誤り。埋設物は現地確認する。
- ウ：誤り。クレーン配置や掘削範囲が双方に影響する。
- エ：正しい。地下・上空・揚重の危険が重なるため統合的に管理する。

総合解説：地下・上空・揚重の危険が重なるため統合的に管理する。。この論点では、個人の注意だけに依存せず、計画・設備・作業管理を組み合わせることで危険を低減することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

問題：指定地域内の特定建設作業に伴う騒音について、敷地境界線における基準として正しいものはどれか。

ア．騒音規制法の特定建設作業基準として、敷地境界線で85デシベルを超えないよう管理する。
イ．一般的な大きな騒音値を基準とみなし、90デシベルを超えないよう管理する。

ウ．作業機械単体の騒音レベルと混同し、100デシベルを超えないことを基準とする。
エ．振動規制で用いられる数値と混同し、75デシベルを騒音基準とする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。特定建設作業の騒音は、作業場所の敷地境界線において85デシベルを超えないことが基準である。
イ：誤り。90デシベルではない。
ウ：誤り。100デシベルではない。
エ：誤り。75デシベルは特定建設作業の騒音基準ではない。

総合解説：特定建設作業の騒音は、作業場所の敷地境界線において85デシベルを超えないことが基準である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

問題：特定建設作業の騒音規制について、最も適切な説明はどれか。

ア．騒音の大きさだけが規制対象で、作業時間帯は関係しない。
イ．騒音の大きさだけでなく、区域に応じた作業時間帯、1日の作業時間、連続作業日数、休日作業等も規制対象となる。
ウ．昼間であれば作業時間や曜日に関係なく実施できる。
エ．規制は工事完了後の測定結果だけを対象とする。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。時間帯等も規制される。
イ：正しい。特定建設作業では騒音値に加え、時間帯、1日当たり時間、期間、休日等の規制がある。
ウ：誤り。区域等に応じた時間・曜日の規制がある。
エ：誤り。施工中の特定建設作業が対象である。

総合解説：特定建設作業では騒音値に加え、時間帯、1日当たり時間、期間、休日等の規制がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

問題：特定建設作業に伴う振動の規制として、最も適切なものはどれか。

- ア．夜間作業であれば振動値の基準は適用されない。
- イ．振動値だけが規制され、時間帯の規制はない。
- ウ．振動の大きさだけでなく、作業時間帯、1日の作業時間、作業期間、休日等も含めて規制される。
- エ．特定建設作業であっても振動規制法の対象にはならない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。夜間だから基準が外れるわけではない。
- イ：誤り。時間帯等も規制対象である。
- ウ：正しい。振動規制法では特定建設作業について振動の大きさとともに時間・期間等の規制を行う。
- エ：誤り。政令で定める著しい振動を発生する建設作業は規制対象となる。

総合解説：振動規制法では特定建設作業について振動の大きさとともに時間・期間等の規制を行う。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

問題：病院に近接する現場で、騒音・振動の発生が大きい作業を計画している。最も適切な対策はどれか。

- ア．騒音対策として機械を建物境界に最も近い位置へ置く。
- イ．作業時間を短くする代わりに同時に複数機械を稼働させる。
- ウ．基準内なら周辺施設への配慮は一切不要とする。
- エ．低騒音・低振動型の機械や施工方法を検討し、作業時間帯や配置も含めて周辺影響を低減する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。発生源を離す等の配置検討が必要である。
- イ：誤り。総騒音・振動が増える可能性がある。
- ウ：誤り。基準遵守に加え周辺環境への配慮が重要である。
- エ：正しい。発生源対策、配置、時間調整等を組み合わせることが有効である。

総合解説：発生源対策、配置、時間調整等を組み合わせることが有効である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

問題：屋外で騒音源となる機械を使用する場合、防音パネルの配置として最も適切な考え方はどれか。

- ア．騒音源と受音点の間に遮蔽できるよう配置し、隙間や反射の影響も考慮する。
- イ．騒音源と反対側だけに設置する。
- ウ．パネルに大きな隙間を設けるほど遮音効果が高まる。
- エ．受音点との位置関係を考えず任意に置く。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。遮蔽物は騒音源と受音点の伝搬経路を遮る配置が基本である。
- イ：誤り。受音点との間を遮る必要がある。
- ウ：誤り。隙間は遮音効果を低下させる。
- エ：誤り。伝搬経路を踏まえた配置が必要である。

総合解説：遮蔽物は騒音源と受音点の伝搬経路を遮る配置が基本である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

問題：同型機械のうち1台だけ異常な騒音と振動が発生している。最も適切な対応はどれか。

- ア．防音シートを掛けるだけで機械状態は確認しない。
- イ．使用を継続せず、緩み・摩耗・損傷等を点検し、整備後に正常状態を確認する。
- ウ．異常音がしても能力が出ていれば使い続ける。
- エ．周辺住民から苦情が出るまで点検しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。発生源である機械状態を確認する必要がある。
- イ：正しい。機械の異常は騒音・振動増大や故障の兆候であり、点検・整備が必要である。
- ウ：誤り。異常状態の継続使用は不適切である。
- エ：誤り。苦情発生前には是正すべきである。

総合解説：機械の異常は騒音・振動増大や故障の兆候であり、点検・整備が必要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

問題：近隣から「夕方のはつり作業の騒音が大きい」と苦情があった。最も適切な対応はどれか。

- ア．苦情者の主観として記録せず処理する。
- イ．作業時間を延長して短期間で終わらせればよい。
- ウ．作業内容・時間帯・測定状況を確認し、必要に応じ施工方法や時間帯、防音措置を見直して結果を説明する。
- エ．法定基準内と推定して現場確認を行わない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。記録・確認し管理へ反映する。
- イ：誤り。時間延長が規制や影響を悪化させる場合がある。
- ウ：正しい。苦情は周辺影響の重要な情報として、事実確認と必要な是正を行う。
- エ：誤り。実態確認が必要である。

総合解説：苦情は周辺影響の重要な情報として、事実確認と必要な是正を行う。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

問題：短期間だが大きな騒音・振動を伴う作業を住宅地で行う。最も適切な周辺対応はどれか。

- ア．作業開始後に問い合わせがあった場合だけ説明する。
- イ．短期間なら規制や周知を確認しなくてよい。
- ウ．周知すると苦情が増えるため意図的に知らせない。
- エ．作業日時・内容・想定影響・連絡先を事前に周知し、必要な規制・届出と低減対策を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。事前の情報提供が望ましい。
- イ：誤り。短期間でも対象作業なら確認が必要である。
- ウ：誤り。必要な情報提供を避けるべきではない。
- エ：正しい。事前周知と法令確認は周辺環境への影響を適切に管理するうえで重要である。

総合解説：事前周知と法令確認は周辺環境への影響を適切に管理するうえで重要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

問題：同一場所でコンプレッサ、発電機、はつり機を同時使用する計画で、敷地境界の騒音が問題となる可能性がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．同時稼働の影響を考慮し、機械配置、稼働時間の分散、防音措置等を組み合わせて評価・低減する。
- イ．機械を境界側へ集中配置して管理しやすくする。
- ウ．機械ごとに単独で基準以下なら同時稼働の影響は考えない。
- エ．最も静かな1台だけ測定し全体を評価する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。複数音源の重なりを考慮して現場全体の影響を評価する必要がある。
- イ：誤り。境界への影響を増やす可能性がある。
- ウ：誤り。同時稼働では合成された影響が生じる。
- エ：誤り。代表性のない測定では全体を評価できない。

総合解説：複数音源の重なりを考慮して現場全体の影響を評価する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

問題：学校に隣接する現場で、くい・はつり等の騒音・振動作業が授業時間と重なる。最も適切な施工管理はどれか。

- ア．授業中に集中して作業し、休み時間は停止する。
- イ．法令上の規制を確認したうえで、学校と調整し、低騒音・低振動工法、作業時間の変更、遮音等を工程へ反映する。
- ウ．騒音対策だけ行い振動の影響は確認しない。
- エ．規制基準内なら学校との調整は不要とする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。影響を受ける時間帯へ集中させるのは不適切である。
- イ：正しい。法令遵守に加え、周辺施設の利用状況を踏まえて複数対策を工程へ組み込むことが適切である。
- ウ：誤り。騒音と振動の双方を評価する。
- エ：誤り。周辺条件に応じた調整が重要である。

総合解説：法令遵守に加え、周辺施設の利用状況を踏まえて複数対策を工程へ組み込むことが適切である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

問題：乾燥した地盤を掘削・搬出する作業で粉じん飛散を抑える方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．粉じんが見えなくなるまで作業速度を上げる。
- イ．風下側へ送風機を向けて粉じんを場外へ排出する。
- ウ．散水や湿潤化、飛散しにくい施工方法、搬出車両の覆い等により発生・飛散を抑える。
- エ．乾燥状態を維持して粉じんを細かくする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。速度を上げることは対策にならない。
- イ：誤り。場外への拡散を助長する。
- ウ：正しい。粉じんは発生源での湿潤化や飛散経路の遮断等により低減する。
- エ：誤り。乾燥は飛散しやすくする。

総合解説：粉じんは発生源での湿潤化や飛散経路の遮断等により低減する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

問題：既存建築物の配管更新で、保温材や天井材を撤去する改修工事を行う場合の石綿対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．目視で石綿が見えなければ調査不要である。
- イ．配管工事業者が扱う改修工事は大気汚染防止法の対象外である。
- ウ．新築ではないので石綿調査は不要である。
- エ．解体・改修の対象となる建材について、法令に基づく石綿含有建材の事前調査を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。所定の方法で事前調査を行う。
- イ：誤り。工種名ではなく解体・改造・補修の内容で判断する。
- ウ：誤り。既存建築物の改修こそ事前調査の対象となり得る。
- エ：正しい。建築物等の解体・改造・補修では、石綿含有建材の使用有無を事前に調査する必要がある。

総合解説：建築物等の解体・改造・補修では、石綿含有建材の使用有無を事前に調査する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

問題：掘削工事で濁水が発生し、河川や下水道へ排水する必要がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．関係法令や管理者条件を確認し、沈殿等で濁りを除去するなど必要な処理を行った後に排水する。
- イ．濁水をそのまま最寄りの側溝へ放流する。
- ウ．見た目が薄ければ管理者条件を確認せず放流する。
- エ．雨天時だけは無処理で河川へ流してよい。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。工事により生じる濁水は、関係法令等に従い必要な処理をしてから放流する。
- イ：誤り。無処理放流は不適切である。
- ウ：誤り。排水先の条件確認が必要である。
- エ：誤り。雨天であっても適正な排水管理が必要である。

総合解説：工事により生じる濁水は、関係法令等に従い必要な処理をしてから放流する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

問題：沈砂槽を使用して工事濁水を処理しているが、槽内に土砂が堆積し有効容量が小さくなっている。最も適切な対応はどれか。

- ア．沈殿しないよう槽内を常時強く攪拌する。
- イ．堆積土砂を適切に除去し、必要な滞留時間・処理能力を確保できる状態に維持する。
- ウ．槽が満杯になるまで清掃しない。
- エ．流入量を増やして短時間で通過させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。沈殿を妨げる。
- イ：正しい。沈殿処理設備は堆積物を管理し、所定の処理能力を維持する必要がある。
- ウ：誤り。有効容量低下により処理性能が悪化する。
- エ：誤り。滞留時間不足で処理性能が低下する。

総合解説：沈殿処理設備は堆積物を管理し、所定の処理能力を維持する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

問題：土工事現場から退出するダンプトラックが、タイヤに泥を付着させたまま公道へ出ようとしている。最も適切な対応はどれか。

- ア．雨天なら泥は流れるので洗車しない。
- イ．運転者へ注意するだけで車両状態は確認しない。
- ウ．必要な洗車・泥落としを行い、荷台の飛散防止も確認してから公道へ出す。
- エ．道路上で自然に泥が落ちるのでそのまま出す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。雨天でも路面汚損を招く。
- イ：誤り。実際の車両状態を確認する。
- ウ：正しい。工事由来の泥・土砂・粉じんを公道へ持ち出さない管理が必要である。
- エ：誤り。路面汚損や粉じん・交通事故の原因となる。

総合解説：工事由来の泥・土砂・粉じんを公道へ持ち出さない管理が必要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

問題：改修工事中、事前調査で把握していなかった古い保温材が露出し、石綿含有の可能性が疑われた。最も適切な対応はどれか。

- ア．工程を優先して切断し、後で成分を確認する。
- イ．粉じんが少なければ石綿の可能性を無視する。
- ウ．作業員が防じんマスクを着ければ周辺飛散対策は不要である。
- エ．むやみに損傷させず作業を止め、調査・判断できる体制で確認し、必要な飛散防止措置へ切り替える。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。飛散させる前に確認する必要がある。
- イ：誤り。外観や粉じん量だけでは判断できない。
- ウ：誤り。作業員保護だけでなく周辺への飛散防止も必要である。
- エ：正しい。不明建材を無計画に損傷させず、確認のうえ必要な法令対応と飛散防止を行う。

総合解説：不明建材を無計画に損傷させず、確認のうえ必要な法令対応と飛散防止を行う。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

問題：大雨が予想され、現場内の濁水量が既存の沈砂設備能力を超えるおそれがある。最も適切な対応はどれか。

- ア．流入抑制、仮設排水経路、処理設備の増強・予備容量等を事前に検討し、無処理流出を防ぐ。
イ．沈砂槽への流入口を閉じ、現場内の任意箇所へ放流する。
ウ．あふれた分は自然災害なのでそのまま場外へ流す。
エ．降雨後に苦情があった場合だけ対応する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。予想される降雨量と処理能力を踏まえ、越流・無処理流出を防止する計画が必要である。
イ：誤り。別箇所への無計画な放流は適切でない。
ウ：誤り。予見可能な降雨への備えが必要である。
エ：誤り。事前の予防管理が必要である。

総合解説：予想される降雨量と処理能力を踏まえ、越流・無処理流出を防止する計画が必要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

問題：住宅地に隣接する現場で、乾式切断作業と土砂搬出が同時に行われる。風が住宅側へ向いている場合の対策として最も適切なものはどれか。

- ア．風下が住宅側でも作業条件は変更しない。
イ．湿式切断や集じん、散水、作業位置・時間の調整、車両荷台の覆い等を組み合わせて場外飛散を低減する。
ウ．粉じんが目視できなければ対策をすべて解除する。
エ．作業員のマスクだけを強化し、場外飛散は考慮しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。風向等を施工管理へ反映する。
イ：正しい。発生源対策と場外飛散防止を複数組み合わせることで周辺影響を低減する。
ウ：誤り。目視だけで粉じんリスクを判断しない。
エ：誤り。第三者・周辺環境への対策が必要である。

総合解説：発生源対策と場外飛散防止を複数組み合わせることで周辺影響を低減する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

問題：掘削土を仮置きしている現場で、晴天時は粉じん、降雨時は泥水流出が問題となっている。最も適切な管理はどれか。

- ア．晴天時の散水だけ行い、雨天時の流出は考えない。
- イ．雨天時の排水だけ行い、乾燥時の飛散は考えない。
- ウ．乾燥時の散水・覆いと、降雨時の排水路・沈砂処理を計画し、仮置き場所や周囲の養生を一体的に管理する。
- エ．天候に関係なく同一の対策1つだけで管理する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。雨天時の濁水対策も必要である。
- イ：誤り。乾燥時の粉じん対策も必要である。
- ウ：正しい。天候により異なる環境リスクを想定し、粉じんと濁水の両方を管理する必要がある。
- エ：誤り。リスクに応じた複数対策が必要である。

総合解説：天候により異なる環境リスクを想定し、粉じんと濁水の両方を管理する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

問題：建設工事に伴って生じる産業廃棄物の排出事業者について、原則として最も適切なものはどれか。

- ア．発注者だけが排出事業者となり、元請業者には責任がない。
- イ．実際に廃棄物を持った作業員個人が排出事業者となる。
- ウ．収集運搬業者が常に排出事業者となる。
- エ．発注者から直接工事を請け負った元請業者が排出事業者となる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。元請業者が排出事業者責任を負うのが原則である。
- イ：誤り。作業員個人を排出事業者とする整理ではない。
- ウ：誤り。収集運搬業者は委託を受けて運搬する立場である。
- エ：正しい。建設工事では原則として元請業者が排出事業者となり、適正処理の責任を負う。

総合解説：建設工事では原則として元請業者が排出事業者となり、適正処理の責任を負う。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

問題：建設副産物について、最も適切な説明はどれか。

ア．建設工事に伴い副次的に得られる物品で、建設発生土や建設廃棄物などを含む。

イ．建設廃棄物と完全に同義で、建設発生土は含まれない。

ウ．完成した建築設備だけをいう。

エ．建設現場で購入した新品資材だけをいう。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。建設副産物は工事に伴い副次的に得られる物品を広く指し、廃棄物に限られない。

イ：誤り。建設発生土も建設副産物に含まれる。

ウ：誤り。完成設備を指す用語ではない。

エ：誤り。新品資材だけを指す概念ではない。

総合解説：建設副産物は工事に伴い副次的に得られる物品を広く指し、廃棄物に限られない。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

問題：建設廃棄物を現場で分別する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．すべて混合して保管し、処理業者に選別を任せるため。

イ．種類ごとの適正処理や再資源化を行いやすくし、混合廃棄物の発生を抑える。

ウ．廃棄物の種類を記録しなくて済むようにするため。

エ．再資源化できる物もすべて最終処分するため。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。分別排出を原則として管理する。

イ：正しい。分別排出は適正処理・再資源化・減量化の基本となる。

ウ：誤り。種類・数量等の管理は必要である。

エ：誤り。再生利用できるものは有効利用を検討する。

総合解説：分別排出は適正処理・再資源化・減量化の基本となる。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

問題：建設廃棄物の処理を外部へ委託する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．下請業者に処理先選定をすべて任せ、元請は確認しない。
- イ．費用が安ければ無許可業者へ委託してよい。
- ウ．処理する廃棄物が許可の事業範囲に含まれる業者を確認し、法令に従った委託契約を締結する。
- エ．口頭で依頼すれば委託契約書は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。元請は排出事業者として処理責任を負う。
- イ：誤り。無許可業者への不適正委託は認められない。
- ウ：正しい。排出事業者は許可内容を確認し、委託基準に従って適正処理を確保する必要がある。
- エ：誤り。所定の書面契約等が必要である。

総合解説：排出事業者は許可内容を確認し、委託基準に従って適正処理を確保する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

問題：産業廃棄物管理票（マニフェスト）を使用する主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．処理業者の許可確認を不要にするため。
- イ．廃棄物を一般廃棄物へ自動的に変更するため。
- ウ．廃棄物の発生量を意図的に少なく見せるため。
- エ．委託した産業廃棄物の流れを把握し、適正に処理されたことを確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。許可や委託基準の確認は別途必要である。
- イ：誤り。廃棄物の区分を変更する制度ではない。
- ウ：誤り。適正な数量・処理情報を管理する。
- エ：正しい。マニフェストは委託処理の流れと処理終了を確認するための管理票である。

総合解説：マニフェストは委託処理の流れと処理終了を確認するための管理票である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

問題：現場の廃棄物保管場所で、金属くず、廃プラスチック、木くずが混在し、雨水も流入している。最も適切な改善はどれか。

- ア．種類ごとに分別できる容器・区画を設け、飛散・流出等を防止し、表示して保管する。
- イ．一つの山にまとめ、搬出時に考える。
- ウ．雨水で自然に洗浄されるので現状のままにする。
- エ．保管場所の表示を外し、第三者から見えないようにする。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。現場保管では分別、飛散・流出防止、保管場所の明確化が重要である。
- イ：誤り。混合廃棄物の発生を抑えるべきである。
- ウ：誤り。汚水・流出等の環境影響を防止する。
- エ：誤り。適切な表示・管理が必要である。

総合解説：現場保管では分別、飛散・流出防止、保管場所の明確化が重要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

問題：配管更新で大量の金属くずと梱包材が発生する見込みである。最も適切な管理はどれか。

- ア．発生量を把握せず、現場が満杯になってから処理方法を決める。
- イ．発生段階で分別し、再生利用可能なものは適切な再資源化ルートへ回し、発生抑制も検討する。
- ウ．すべて建設混合廃棄物として最終処分する。
- エ．再資源化できる金属も他の廃棄物と混ぜる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。事前計画が必要である。
- イ：正しい。発生抑制、分別、再利用・再資源化、適正処理を計画的に進める。
- ウ：誤り。再資源化できるものの有効利用を検討する。
- エ：誤り。混合すると再資源化を困難にする。

総合解説：発生抑制、分別、再利用・再資源化、適正処理を計画的に進める。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

問題：委託した廃棄物について、マニフェストの返送・処理終了情報が所定どおり確認できない。最も適切な対応はどれか。

- ア．下請業者が運び出した以上、元請は確認しない。
- イ．次回の工事で同じ業者を使うまで放置する。
- ウ．委託先の処理状況を確認し、必要な法令上の措置や報告を含め、不適正処理がないか追跡する。
- エ．返送がなくても搬出済みなので管理を終了する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。元請の排出事業者責任は残る。
- イ：誤り。速やかな確認・対応が必要である。
- ウ：正しい。排出事業者は委託した廃棄物が適正に処理されたか確認する責任がある。
- エ：誤り。処理終了確認が必要である。

総合解説：排出事業者は委託した廃棄物が適正に処理されたか確認する責任がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

問題：大型設備更新工事で、撤去配管、保温材、金属くず、梱包材、建設発生土が生じる。最も適切な管理計画はどれか。

- ア．発生後にすべて混合し、最も安い処分先へ一括搬出する。
- イ．建設発生土もすべて産業廃棄物として同一処理する。
- ウ．廃棄物処理は下請業者だけの業務として元請計画から除外する。
- エ．発生量と種類を事前に見込み、分別、再利用・再資源化、適正保管、許可業者への委託、マニフェスト等を一連で計画する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。分別・適正処理が必要である。
- イ：誤り。建設発生土は建設副産物だが通常は廃棄物とは異なる整理である。
- ウ：誤り。元請は排出事業者として管理する。
- エ：正しい。副産物の種類ごとの性状・法的位置付けを踏まえ、発生抑制から処理確認まで一体的に計画する。

総合解説：副産物の種類ごとの性状・法的位置付けを踏まえ、発生抑制から処理確認まで一体的に計画する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

問題：施工現場で作業員を配置する際の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業内容、必要資格・技能、経験、健康状態、作業間の干渉等を考慮して適正に配置する。
- イ．工程が遅れている場合は資格要件を無視して配置する。
- ウ．人数だけを満たせば技能や健康状態は考慮しない。
- エ．経験の浅い者だけを危険作業へ集中配置する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。作業の危険性と必要能力を踏まえ、適切な者を適切な役割へ配置することが安全管理の基本である。
イ：誤り。法令上必要な資格等を満たす必要がある。
ウ：誤り。技能や健康状態等の適合性を考慮する。
エ：誤り。経験に応じた指導・配置が必要である。

総合解説：作業の危険性と必要能力を踏まえ、適切な者を適切な役割へ配置することが安全管理の基本である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

問題：法令で資格・技能講習等が必要な作業について、最も適切な配置はどれか。

- ア．資格証を持つ者が現場にいらなくても名簿に名前があればよい。
- イ．当該作業に必要な資格・技能要件を満たす者を配置し、資格範囲内で作業させる。
- ウ．資格者は別作業を行い、無資格者へ危険作業を任せる。
- エ．現場経験が長ければ資格がなくても代替できる。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。実際の作業体制として要件を満たす必要がある。
イ：正しい。法令上必要な資格・技能要件を満たす者を実際の対象作業へ配置する必要がある。
ウ：誤り。対象作業は適格者に行わせる。
エ：誤り。経験だけで法定資格を代替できない。

総合解説：法令上必要な資格・技能要件を満たす者を実際の対象作業へ配置する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

問題：新規入場者を施工現場へ配置する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．他現場経験があれば現場固有の説明は不要である。
- イ．最も危険な作業へ単独で配置して早く慣れさせる。
- ウ．現場固有の危険、ルール、避難経路、作業手順等を教育し、必要に応じ経験者の指導下で作業させる。
- エ．避難経路は災害発生後に説明する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。現場固有条件の周知が必要である。
- イ：誤り。経験不足を考慮した配置が必要である。
- ウ：正しい。現場ごとの危険やルールを理解させ、経験に応じた配置・指導を行う。
- エ：誤り。避難経路は事前に周知する。

総合解説：現場ごとの危険やルールを理解させ、経験に応じた配置・指導を行う。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

問題：地下ピット内で異常時に外部へ助けを求めにくい作業を一人で行わせる計画について、最も適切な判断はどれか。

- ア．異常が起きた場合に本人が自力で退出できることを前提とする。
- イ．熟練者なら連絡手段なしで単独作業させる。
- ウ．短時間なら所在確認を行わなくてよい。
- エ．作業の危険性を評価し、連絡・監視・救援体制を確保するなど、単独作業によるリスクを低減する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。自力退出できない事態も想定する。
- イ：誤り。熟練度だけで救援遅延リスクは除去できない。
- ウ：誤り。短時間でも異常は起こり得る。
- エ：正しい。救援が遅れる場所では、単独作業の可否と監視・連絡体制を事前に検討する必要がある。

総合解説：救援が遅れる場所では、単独作業の可否と監視・連絡体制を事前に検討する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

問題：重量物の人力取扱いが続く作業で、特定の作業員に負担が集中している。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業方法の機械化・補助具使用、役割交替、休憩等を検討し、特定者への過大な負担を避ける。
- イ．疲労が見られても工程終了まで交替させない。
- ウ．作業速度を上げて負担時間だけ短くする。
- エ．最も体力がある者へ全作業を固定する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。身体負荷と疲労を考慮し、作業方法・人員・休憩を調整することが重要である。
- イ：誤り。疲労時は配置や作業継続を見直す。
- ウ：誤り。速度上昇により事故リスクが高まる場合がある。
- エ：誤り。過度な負担集中は災害や健康障害につながる。

総合解説：身体負荷と疲労を考慮し、作業方法・人員・休憩を調整することが重要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

問題：狭い機械室で、配管溶接、資材搬入、高所作業を同時に行う計画である。最も適切な人員配置はどれか。

- ア．各作業班を最大人数で同時投入する。
- イ．作業区域・時間を調整し、相互干渉を避け、必要な監視・誘導・火気管理等の役割を明確に配置する。
- ウ．作業内容の違いを考慮せず同一エリアに自由配置する。
- エ．監視・誘導の役割を定めず、全員が兼務する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。過密化により干渉リスクが増す。
- イ：正しい。混在作業では人数を増やすだけでなく、作業分離と役割分担を計画する必要がある。
- ウ：誤り。作業間の危険を調整する必要がある。
- エ：誤り。責任と役割を明確にする。

総合解説：混在作業では人数を増やすだけでなく、作業分離と役割分担を計画する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

問題：朝礼時、作業員が発熱と強い倦怠感を訴えている。高所配管作業への配置として最も適切な対応はどれか。

- ア．体調情報は私生活なので安全配置には考慮しない。
- イ．本人が希望すれば通常どおり高所へ配置する。
- ウ．体調を確認し、危険作業への配置を見合わせるなど、健康状態に応じて作業可否を判断する。
- エ．人手不足なので最も短時間の高所作業だけ行わせる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。作業安全に関係する健康状態は適切に考慮する。
- イ：誤り。本人希望だけで安全性を判断しない。
- ウ：正しい。体調不良は判断力・身体機能へ影響し得るため、危険作業への配置を慎重に判断する。
- エ：誤り。短時間でも墜落等の危険がある。

総合解説：体調不良は判断力・身体機能へ影響し得るため、危険作業への配置を慎重に判断する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

問題：夜間まで続く設備切替工事で作業班を交替する。最も適切な引継ぎはどれか。

- ア．危険箇所は前班だけが把握していればよい。
- イ．交替時に設備状態を確認せず、次班がーから推測する。
- ウ．作業進捗率だけを口頭で伝える。
- エ．未完了作業、危険箇所、隔離・復旧状態、変更点、次工程の注意事項を具体的に引き継ぐ。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。次班へ危険情報を伝える必要がある。
- イ：誤り。設備状態を明確に確認・共有する。
- ウ：誤り。進捗だけでは安全状態を把握できない。
- エ：正しい。交替時の情報欠落は重大事故につながるため、安全上必要な状態情報を引き継ぐ。

総合解説：交替時の情報欠落は重大事故につながるため、安全上必要な状態情報を引き継ぐ。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

問題：複数階で同時に揚重と配管据付を行うため、1人の職長が全箇所を直接確認できない。最も適切な体制はどれか。

- ア．作業範囲ごとに必要な指揮・連絡担当を配置し、全体責任者との連絡系統を明確にする。
- イ．職長が見えない場所は各作業員の判断だけに任せる。
- ウ．無線があるので現場側の担当者は不要である。
- エ．複数階の合図を1人の運転者が同時に解釈する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。広範囲・同時作業では現場で指揮・連絡できる体制と全体の系統整理が必要である。
- イ：誤り。危険作業を個人判断だけにしない。
- ウ：誤り。現場状況を把握する担当が必要な場合がある。
- エ：誤り。合図系統の混乱を防止する必要がある。

総合解説：広範囲・同時作業では現場で指揮・連絡できる体制と全体の系統整理が必要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

問題：工程遅延により、通常は別日に行う高所作業と資材搬入を同日に実施することになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．高所作業者が搬入誘導も同時に兼務する。
- イ．変更後の危険を再評価し、人員数だけでなく作業分離、監視・誘導、必要資格等を含めて配置を見直す。
- ウ．人数を倍にすれば安全条件の再検討は不要である。
- エ．当初の配置表を変更せずそのまま使う。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。危険作業中の安易な兼務は不適切である。
- イ：正しい。工程変更により作業干渉が増える場合は配置・役割・作業順序を再評価する。
- ウ：誤り。人数増加だけではリスクを解消できない。
- エ：誤り。条件変更を配置へ反映する。

総合解説：工程変更により作業干渉が増える場合は配置・役割・作業順序を再評価する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

問題：複雑な既設配管切替を、経験の浅い作業員だけで構成した班に任せる計画である。最も適切な対応はどれか。

- ア．失敗すれば覚えるとして教育せず作業させる。
- イ．経験者は別現場に置き、電話で質問があれば答えるだけにする。
- ウ．作業経験・技能を持つ者を適切に配置し、経験の浅い者には明確な手順と指導・確認体制を設ける。
- エ．全員が未経験でも人数が多ければ問題ない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。事前教育・手順確認が必要である。
- イ：誤り。必要な場面で現場確認できる体制を検討する。
- ウ：正しい。作業難度に応じてチームの技能構成と指導体制を整える必要がある。
- エ：誤り。人数だけで技能不足を補えない。

総合解説：作業難度に応じてチームの技能構成と指導体制を整える必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

問題：真夏の屋上で重量配管を据え付ける。高所作業資格者は少なく、新規入場者が多く、午後に暑熱が強まる予報である。最も適切な配置計画はどれか。

- ア．人数確保を優先し、資格・経験・暑熱条件を考慮しない。
- イ．新規入場者を高所へ集中配置し、経験者は地上作業へ回す。
- ウ．暑熱対策は個人の水分補給だけに任せ、配置は変更しない。
- エ．有資格者・経験者を核に役割を分担し、新規入場者を指導下に置き、暑熱時間帯を避ける工程・休憩・監視体制を組み合わせる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。複数のリスク条件を考慮する必要がある。
- イ：誤り。経験不足を危険作業へ集中させるのは不適切である。
- ウ：誤り。工程・休憩・監視等の組織的対策も必要である。
- エ：正しい。資格・経験・作業負荷・暑熱環境を同時に考慮した配置が必要である。

総合解説：資格・経験・作業負荷・暑熱環境を同時に考慮した配置が必要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

問題：2025年6月1日施行の改正労働安全衛生規則で、熱中症対策強化の対象となる「熱中症を生ずるおそれのある作業」の目安として正しいものはどれか。

- ア．WBGT28度以上又は気温31度以上の環境で、継続1時間以上又は1日4時間を超えて行うことが見込まれる作業。
- イ．気温35度以上で1日8時間を超える作業だけ。
- ウ．WBGT20度以上で10分以上のすべての作業。
- エ．気温25度以上で30分以上のすべての作業。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。改正省令の施行通達では、WBGT28度又は気温31度以上で一定時間以上の作業が対象として示されている。
- イ：誤り。対象は35度・8時間だけに限定されない。
- ウ：誤り。その基準ではない。
- エ：誤り。その基準ではない。

総合解説：改正省令の施行通達では、WBGT28度又は気温31度以上で一定時間以上の作業が対象として示されている。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

問題：熱中症を生ずるおそれのある作業を行う際、事業者があらかじめ整備・周知すべきものとして、最も適切なものはどれか。

- ア．管理者の私用電話番号だけを非公開で保管すること。
- イ．自覚症状がある作業業者、熱中症のおそれがある者を見つけた者が報告できる連絡体制。
- ウ．熱中症の報告を作業終了後だけ受け付ける制度。
- エ．本人が倒れるまで報告しないというルール。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。関係作業者が利用できる体制として周知する必要がある。
- イ：正しい。早期発見のため、報告先や担当者等の体制をあらかじめ定め、関係作業業者へ周知することが求められる。
- ウ：誤り。作業中に速やかに報告できる体制が必要である。
- エ：誤り。重篤化前の早期報告が重要である。

総合解説：早期発見のため、報告先や担当者等の体制をあらかじめ定め、関係作業業者へ周知することが求められる。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

問題：熱中症のおそれがある作業者を認めた場合の対応手順として、最も適切なものはどれか。

- ア．休憩なしで軽作業へ変更するだけにする。
- イ．水を一口飲ませ、症状があっても一人で帰宅させる。
- ウ．作業から離脱させ、身体を冷却し、必要に応じ医師の診察・処置を受けさせるなど、定めた手順に従って対応する。
- エ．作業効率を優先し、終業まで様子を見る。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。熱への曝露を継続させるのは不適切である。
- イ：誤り。症状がある者を一人にせず、必要な医療対応を判断する。
- ウ：正しい。重篤化防止のため、離脱・冷却・必要な医療対応等を迅速に行う。
- エ：誤り。重篤化する前に対応する必要がある。

総合解説：重篤化防止のため、離脱・冷却・必要な医療対応等を迅速に行う。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

問題：夏季の屋外配管作業でWBGT値を測定する目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．測定値は記録だけし、作業計画には反映しない。
- イ．気温計があるためWBGT値は安全管理に使わない。
- ウ．WBGT値が高いほど作業速度を上げて早く終わらせる。
- エ．暑熱リスクを客観的に把握し、値や作業強度等に応じて休憩、作業時間、環境改善等を調整する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。測定結果を具体的な対策へつなげる。
- イ：誤り。WBGTは暑熱リスク評価に有用である。
- ウ：誤り。高WBGT時は曝露低減を検討する。
- エ：正しい。2026年ガイドラインはWBGT値の把握と、その値に応じた対策の実施を重視している。

総合解説：2026年ガイドラインはWBGT値の把握と、その値に応じた対策の実施を重視している。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

問題：暑い時期の作業に慣れていない新規入場者を、初日から長時間の屋上作業へ配置する計画について、最も適切な対応はどれか。

- ア．暑熱への順化状況を考慮し、作業時間・負荷を段階的に調整し、休憩や観察を手厚くする。
- イ．初日に最も長時間作業させれば早く順化できる。
- ウ．本人が暑いと言わなければ休憩は不要である。
- エ．若年者なら順化を考慮しなくてよい。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。暑熱順化が不十分な者は熱中症リスクが高まるため、段階的な作業負荷と観察が重要である。
- イ：誤り。急激な負荷増加は危険である。
- ウ：誤り。自覚症状が出る前の予防が重要である。
- エ：誤り。年齢だけでリスクを判断しない。

総合解説：暑熱順化が不十分な者は熱中症リスクが高まるため、段階的な作業負荷と観察が重要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

問題：高温環境での作業における水分・塩分補給の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．終業まで飲水を控え、まとめて補給する。
- イ．のどの渇きだけに頼らず、作業条件や発汗に応じて計画的に水分・塩分を補給できる環境を整える。
- ウ．アルコール飲料を水分補給として推奨する。
- エ．水分補給は各自の自己責任とし、現場では飲料を用意しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。長時間の補給不足は危険である。
- イ：正しい。熱中症予防では計画的な水分・塩分補給が重要である。
- ウ：誤り。アルコールは適切な水分補給ではない。
- エ：誤り。事業場として補給しやすい環境整備を行う。

総合解説：熱中症予防では計画的な水分・塩分補給が重要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

問題：高温作業に従事予定の作業者が、熱中症の発症に影響し得る持病について医師から注意を受けている。最も適切な対応はどれか。

- ア．持病がある者は医師の意見を確認せず一律に就業禁止とする。
- イ．持病は私生活の問題として作業配置に一切反映しない。
- ウ．本人の健康情報を適切に扱い、医師等の意見を踏まえて作業内容・時間・配置等を配慮する。
- エ．本人が出勤した以上、他の作業者と全く同じ負荷を課す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。一律判断ではなく専門的意見等に基づき適切に判断する。
- イ：誤り。安全に係る健康状態には必要な配慮を行う。
- ウ：正しい。2026年の熱中症対策では、発症に影響する疾病を有する者へ医師等の意見を踏まえた配慮が重視されている。
- エ：誤り。個人の健康状態に応じた配慮が必要である。

総合解説：2026年の熱中症対策では、発症に影響する疾病を有する者へ医師等の意見を踏まえた配慮が重視されている。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

問題：作業員が頭痛、ふらつき、吐き気を訴え「少し休めば一人で帰れる」と話している。最も適切な対応はどれか。

- ア．涼しい場所へ移さず現場の隅で休ませる。
- イ．症状を記録せず、翌日出勤できれば問題なしとする。
- ウ．本人の希望を優先してすぐ一人で帰宅させる。
- エ．作業から離脱させて冷却・観察を行い、症状に応じて医療機関への受診・搬送を判断し、一人にしない。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。身体冷却など適切な措置を行う。
- イ：誤り。発生状況を管理へ反映し再発防止につなげる。
- ウ：誤り。一人での帰宅中に悪化する危険がある。
- エ：正しい。熱中症は急速に重篤化する場合があります、症状がある者を適切に観察・対応する必要がある。

総合解説：熱中症は急速に重篤化する場合があります、症状がある者を適切に観察・対応する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

問題：真夏の屋上で午前から午後まで配管支持金物を施工する。午後にWBGT上昇が予想され、新規入場者もいる。最も適切な施工管理はどれか。

- ア．WBGTを継続把握し、高温時間帯を避ける工程、休憩・冷却場所、水分塩分補給、順化を考慮した配置、報告・緊急対応体制を組み合わせる。
- イ．水を置くだけで作業時間や配置は変えない。
- ウ．午後の高温時間帯に作業を集中して早く終わらせる。
- エ．新規入場者を最も暑い時間帯へ優先配置する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。熱中症防止は環境管理、作業管理、健康管理、教育、重篤化防止を一体的に行うことが重要である。
- イ：誤り。単一对策だけでは不十分である。
- ウ：誤り。高温時間帯の曝露低減を検討する。
- エ：誤り。暑熱順化等を考慮する。

総合解説：熱中症防止は環境管理、作業管理、健康管理、教育、重篤化防止を一体的に行うことが重要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

問題：施工現場で災害が発生した場合の初動として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．現場外へ知られないよう通報を行わない。
- イ．人命救助と二次災害防止を優先し、必要な通報・連絡を行い、安全を確保したうえで状況確認・復旧へ進む。
- ウ．工程への影響確認を最優先し、負傷者対応は後回しにする。
- エ．原因調査のため危険区域へ全員を残す。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。必要な通報・連絡を行う。
- イ：正しい。災害時は人命と二次災害防止を最優先し、関係機関への連絡等を行う。
- ウ：誤り。人命救助が優先である。
- エ：誤り。危険区域から退避させる。

総合解説：災害時は人命と二次災害防止を最優先し、関係機関への連絡等を行う。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

問題：現場の緊急連絡体制として、最も適切なものはどれか。

- ア．現場代理人だけが連絡先を知り、他の者には知らせない。
- イ．連絡体制は事故が起きてから作成する。
- ウ．消防・救急、発注者、施設管理者、埋設物管理者等、想定災害に応じた連絡先と役割を事前に整理し、関係者へ周知する。
- エ．緊急時にインターネットで連絡先を探す前提とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。必要な関係者が利用できるよう周知する。
- イ：誤り。事前準備が必要である。
- ウ：正しい。迅速な初動のため、想定災害に応じた連絡先・役割を事前に整理する必要がある。
- エ：誤り。緊急時の検索に依存しない。

総合解説：迅速な初動のため、想定災害に応じた連絡先・役割を事前に整理する必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

問題：現場の避難計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．避難経路は通常作業の資材置場として使用する。
- イ．集合場所は災害発生後にその場で決める。
- ウ．新規入場者には避難経路を知らせない。
- エ．火災・地震等を想定し、安全な避難経路と集合場所を定め、資材等で塞がれないよう維持し、関係者へ周知する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。避難経路を塞いではならない。
- イ：誤り。事前に定める。
- ウ：誤り。全関係者へ周知する。
- エ：正しい。避難経路・集合場所は平常時から確保・周知しておく必要がある。

総合解説：避難経路・集合場所は平常時から確保・周知しておく必要がある。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

問題：溶接作業付近の保温材から出火し、初期消火可能か判断が必要な状況である。最も適切な対応はどれか。

- ア．周囲へ火災を知らせ、必要な通報・避難を行い、安全を確保した範囲で適切な消火器等による初期消火を行う。
- イ．消火器の種類を確認せず任意の方法で消火する。
- ウ．誰にも知らせず一人で消火を続ける。
- エ．煙が増えても避難せず、消火できるまで現場に残る。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。初期消火は安全確保を前提に行い、通報・避難を遅らせないことが重要である。
- イ：誤り。火災の種類に適した消火方法を用いる。
- ウ：誤り。周囲への警報・応援要請が必要である。
- エ：誤り。危険が拡大する場合は退避する。

総合解説：初期消火は安全確保を前提に行い、通報・避難を遅らせないことが重要である。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

問題：工事中に強い地震が発生し、揺れが収まった。作業再開前の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．目立つ被害がなければ高所設備の点検を省略する。
- イ．足場、吊り設備、仮設物、配管支持、掘削部等の異常を点検し、危険箇所を是正して安全を確認してから再開する。
- ウ．工程遅延を避けるため点検と並行して通常作業を続ける。
- エ．揺れが収まれば直ちに全作業を再開する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。高所・仮設設備も確認が必要である。
- イ：正しい。地震後は構造物・仮設物等の変状を点検し、二次災害を防止してから再開する。
- ウ：誤り。安全確認前に通常作業を継続しない。
- エ：誤り。余震や変状による二次災害があり得る。

総合解説：地震後は構造物・仮設物等の変状を点検し、二次災害を防止してから再開する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

問題：既設設備の切替中に、配管から有害又は可燃性の可能性がある流体が漏えいした。最も適切な初動はどれか。

- ア．物質を確認せず素手で漏えい箇所を塞ぐ。
- イ．臭いが弱ければ作業を続ける。
- ウ．作業を中止し、必要に応じ火気・着火源を排除して退避・立入規制し、設備管理者等へ連絡して物質に応じた処置を行う。
- エ．漏えいを隠すため床排水へ洗い流す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。化学的・火災等の危険が不明である。
- イ：誤り。濃度や危険性を確認せず継続しない。
- ウ：正しい。物質不明時はむやみに接触せず、隔離・退避・連絡を優先して適切な対応へつなげる。
- エ：誤り。不適切な排水は被害を拡大するおそれがある。

総合解説：物質不明時はむやみに接触せず、隔離・退避・連絡を優先して適切な対応へつなげる。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

問題：集中豪雨で地下機械室への浸水が始まり、仮設電源盤の近くまで水位が上昇している。最も適切な対応はどれか。

- ア．電気設備の状態を確認せず作業員を増員する。
- イ．排水ポンプを取りに行くため水中を歩いて電源盤へ近づく。
- ウ．水位が上がっても通常作業を続ける。
- エ．感電・閉じ込め等の危険を考慮して作業員を退避させ、安全な方法で電源隔離や止水・排水を行う体制へ移行する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。人員増加より電気・避難条件を確認する。
- イ：誤り。通電部付近の水中移動は危険である。
- ウ：誤り。危険拡大時は退避する。
- エ：正しい。浸水時は感電・閉じ込め・設備損傷などの二次災害を避け、安全確保を優先する。

総合解説：浸水時は感電・閉じ込め・設備損傷などの二次災害を避け、安全確保を優先する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

問題：揚重作業中に接触事故が起き、作業員が負傷した。原因となった吊り具や設備も確認する必要がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．負傷者の救護と二次災害防止を優先し、必要な通報後、安全を確保したうえで事故状況や設備状態を保全・記録する。
- イ．負傷者だけ搬送し、危険な吊り具をそのまま使用して作業を続ける。
- ウ．原因が不明でも設備をすぐ分解し、状況記録を残さない。
- エ．証拠保全を優先して負傷者をその場から動かさない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。人命を優先しつつ、再発防止に必要な現場・設備情報を安全に保全する。
- イ：誤り。二次災害防止のため作業を止める。
- ウ：誤り。原因究明に必要な情報を適切に記録する。
- エ：誤り。救命上必要な対応を妨げてはならない。

総合解説：人命を優先しつつ、再発防止に必要な現場・設備情報を安全に保全する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

問題：地震直後、機械室で配管から漏水し、停電して非常照明だけが点灯し、一部通路に資材が散乱している。最も適切な対応はどれか。

- ア．漏水修理を最優先し、避難確認は後回しにする。
- イ．作業を停止して人員を確認し、安全な避難経路を確保して退避させ、二次災害を防ぎつつ設備管理者等と連携して漏水・電源・構造物の安全確認を行う。
- ウ．停電中なので電氣的危険はないと決めつけて水中へ入る。
- エ．資材散乱を片付けながら通常の施工も再開する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。人命・避難確認が先である。
- イ：正しい。複合災害では人員確認・避難・二次災害防止を優先し、各危険を系統的に確認する。
- ウ：誤り。復電や残留電荷等も想定して安全確認が必要である。
- エ：誤り。通常施工は安全確認後に再開する。

総合解説：複合災害では人員確認・避難・二次災害防止を優先し、各危険を系統的に確認する。この論点では、法令・現場条件・周辺影響を確認し、予防的な管理を施工計画と現場運用へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21